



東海道名所圖會  
二

ル 3
376
2



門 376  
卷 2

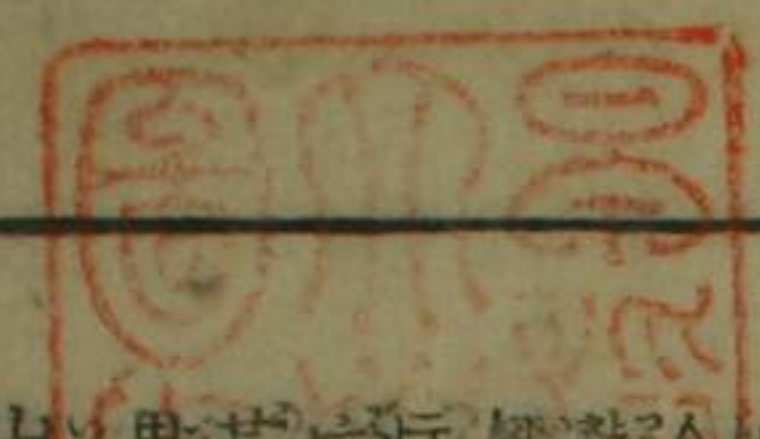
東海道名所圖會卷之二

目錄

石山寺  
古觀圖  
頼朝墓  
龍藏院  
行履圖  
方舎  
荒浦茶所  
見山堂  
岩向寺  
田上不動  
龍神祠  
野路玉川  
石津寺  
佛舎  
佛舎  
八葉巖  
入降利髮名所  
二十八社  
經藏  
源初  
阿弥陀  
紫式  
多寶堂  
御影堂  
勝南院  
不勝院  
小谷初尊  
僧屋橋  
義平墓  
石山寺  
蟹谷  
御靈祠  
勢田橋  
建都神社  
夫妻橋  
草津  
御影堂  
阿弥陀  
紫式  
多寶堂  
御影堂  
勝南院  
不勝院  
小谷初尊  
僧屋橋

石山寺  
古觀圖  
頼朝墓  
龍藏院  
行履圖  
方舎  
荒浦茶所  
見山堂  
岩向寺  
田上不動  
龍神祠  
野路玉川  
石津寺  
佛舎  
佛舎  
八葉巖  
入降利髮名所  
二十八社  
經藏  
源初  
阿弥陀  
紫式  
多寶堂  
御影堂  
勝南院  
不勝院  
小谷初尊  
僧屋橋

山田石亭  
琵琶湖  
野路藤原  
山田石亭  
草津  
夫妻橋  
建都神社  
勢田橋  
御靈祠  
秀郷祠  
月輪池  
鞭寄八幡  
立木祠



常善寺  
 灰冢山  
 三上山  
 石部鹿鹽上神社  
 西寺  
 菱見  
 横田川  
 水口  
 大園寺  
 末社十八卷  
 杖橋  
 山上庚申  
 義朝首洗水  
 土山  
 活人石銘  
 鉤古城  
 御上神社  
 金勝寺  
 東寺  
 日雲靈跡  
 岩根若水寺  
 水口神社  
 飯道寺  
 龍池  
 石南新谷  
 各慶背鏡石  
 山口重成碑  
 田村明神  
 草津川  
 小野寺  
 新善光寺  
 調頁  
 鬼籠  
 妙感寺  
 本堂  
 脚伽井  
 大所堂  
 百傳池  
 吳濃郡天満宮  
 山王洞  
 白山洞  
 山崎向石  
 山依石  
 景清力鏡石  
 慈安寺  
 田村川  
 目川  
 梅本  
 石部  
 阿弥陀寺  
 平松村美松  
 万里小路藤房御終焉地  
 蓮善寺  
 義經腰掛石  
 松尾川  
 瀬江

近勢園場  
 攝社  
 帳宮  
 茅捨山  
 泰官道  
 龜山  
 瑠璃光院  
 山名赤人古蹟  
 追分 泰官道  
 諏訪洞  
 岳阪親若  
 町屋川  
 天武天皇社  
 願證寺  
 鈴麻山  
 八十瀬川  
 關  
 出羽衆  
 森下  
 範頼洞  
 園分古跡  
 日永  
 三重川  
 志氏神社  
 桑名  
 一本松  
 十念寺  
 鈴麻園  
 琴之橋  
 惠蔭櫻  
 古馬屋  
 庄野  
 石薬師  
 杖衝坂  
 安園寺跡  
 建福寺  
 名倉白奥  
 長圓寺  
 光徳寺  
 鈴鹿神社  
 坂下  
 地藏堂  
 布氣神社  
 白鳥塚  
 稚武彦洞  
 采女村  
 四日市  
 那古原屋敷  
 名物場輪  
 久田八幡  
 壽量寺  
 池洲八幡



石山寺  
東寺ヶ寄

勢田川

東海道名所圖會卷之二目錄

阿波多祠	甚目寺	津島波	朝祥卷	向遠波口	不動院	大圓寺	御寶殿	輪崇寺	東名神社
藪香物			西作						杉社
反魂塚	黄津里	津嶋天王	上愛宕	多度神社	楊柳寺	法盛寺	佐乃富神社	大福田寺	母山祠
			八壺	本社		金鼓	觀音堂	本堂	幡龍瓦
豐太閤御出誕古蹟	阿波多浦	阿波多浦	長尾山	梅	赤須賀池	鼓樓	中臣神社	寶法皇宸鏡	本統寺
			岩	七色				什寶	聖天祠
			八王子	末社	伊勢海	最勝寺	佛眼院		
			御毒神	五石					
			阿波多杜	佐屋	斐尾山				



石光山石山寺

志賀郡石山小町 真言宗仁和寺御室小屬は 西園巡禮十二番札所

夜、くもりあけはもろく石山の月もひかりをせよとて来て思ふ

香、夜、秋、風、吹、又、起、雲、邊、桂、子、落、珠、官、  
深、夜、秋、風、吹、又、起、雲、邊、桂、子、落、珠、官、

萬菴

石山寺並集大意

天智天皇をたみ大津の宮に在りし時慶雲の佳瑞ありけり之に往古乃  
至るに故小縁起云云 天智帝の御宇に公のありて紫雲乃にやまり  
天皇のやみあひ勅使と遣へて見せられたる公の半腰に八葉の巖石あり  
奇雲をひささるる多常公のせり誠小大聖雲跡の揚地とを又實隆内府  
勸進疏云樂々波大津の宮ありけり先は東雲の瑞氣ありけり地形乃  
蓮座を志免しと云云爾より一白の星霜と経く時機術純熟しとく  
聖武天皇宸襟の志後しとを所早く改辨僧正としく伽藍と建立  
せりゆりひり上宮太子より歴代稟承の御持尊と八葉の巖石

二ノ四

安曇一白代の皇祚と守護一萬世の勅願と禱祈の法と

本堂

天平勝寶元年己丑年 皇孫信公肇く 基趾とひきき伽藍を造立し  
てより久も義暦二年二月二日 回祿の災に罹りて本堂を焼く  
甲入建之の澳小孫倉吉衛頼朝公再興し之を重修す後、又文正の  
院を焼くにや、公豊臣秀頼との母堂院殿安民治世のお小伽藍を修し

額 當寺諸伽藍者江州北郡淡井備前守息女 亞相秀頼御母堂為二世安樂御再興也

奉尊二臂如意輪觀音

御持尊之既於傍正觀音と云とく文正の巨像  
とはよりく小像と云申入る小百王の寶祚と稱す更ふ心五カ月の上旬  
七ケ日多の法會ありて 慶賀あり 故に作奉尊の初願より回祿して向  
のあり 延喜十七年 尊又院の帝 天皇

八葉巖石

奉尊の御坐あり 金輪漆  
脇士 龍觀金剛神 右金剛藏王二十八部衆

不動明王

奉堂の内陣に在り 阿弥陀佛 表日の他今尊く  
持冥院に在り

普賢菩薩

今世尊院に在り 持冥院に在り

五色佛舍利

今世尊院に在り 持冥院に在り

ヒクナ

弘法大師新髮名跡 内供深師の觀賢傍正と俱ふ大師の廟窟牙入く  
當寺資一の聖賢たるまじりし 後陽成院表相と莊嚴し申入大經入内櫛  
小經古金櫛なりされと石山されく 寛弘の法華式部は寺に叙巻し  
 ○源氏向 源氏也若て修りし所之故也源氏の向といふ  
 石山記云

式アハ右少母原存時朝臣の女上東門院の女房みく侍りたり  
 一条院の清伯母選子内親王よりわたりし御女也若て申入く女院へ申  
 させりたり式部み侍り他をせらるるは事なりと申さんそ當山み  
 七ケ日あり侍りたる湖のうけくとい見たりと心とみくさ備りし  
 風情眼み遮りし年ほとくそ承るべ次大般若の料紙の内陣みあは  
 本尊み申侍りしひあぬ風情公書はけ申し式部は日本紀に  
 たりたりと日本紀局とみひねりたり

順徳院御記曰  
 源氏へ一詞はけ非人間之所為不可説之事也才二哥秀逸是  
 又何人及之我朝之最上也 又若多の序云 如國の至寶へ源氏物語よる  
 たりたりと

石山寺什寶  
 紫式部古硯  
 世謂石山形

豎 六寸二分  
 横 四寸四分  
 厚 一寸二分

風藻空餘湖上秋  
 泓澄春月水悠悠  
 濡毫紫女今何在  
 一片研池萬古留

鶴山畑推菟







天台四門文と讀みかゝる事お宿つたぬくはゆふの半あり

式アハ檀那院の贈僧正の許可と崇ましく天台一心三觀の血脈ヲ入るり

〇硯石 源氏の向の妻とて式アガ所持の硯石とて源氏の御用とて入るり

〇般若經 今高寺の什寶なり

〇二十八社 高寺の鎮守之祭神伊弉諾尊伊弉册尊神日本磐音彦尊成

〇二層多寶塔 建久之に將軍頼朝卿の建立しあり本尊之日如未四門の

〇頼朝墓 空塔の趣也

〇觀月亭 多寶塔の北あり或ハ觀亭又ハ觀月亭とあり湖上の舟

〇鐘樓 中樓の地あり石山右記云は鐘樓なり

〇御影堂 又ハ昧堂或ハ法華堂ともいふ

中央弘法大師 法堂ハ八徳の畫像あり

當寺僧實傳曰 良辨淡海百濟氏子母掌失於棠樹下有僧史

已長而創聖武帝敬崇為帝師寶字四年勅賜

本邦末有黃金乃勅被辨所藏王示近川湖西之

地就彼持念必可得益自聖德皇太子縹廬安帝

始貢尊即六寸金銅像也己修念不幾自興州

朝帝先干東大寺初像還不動巖坐乃具狀奏

趾地中得五尺寶鐸益以靈地如詳載寺志

辨以寶龜四年閏十一月十六日化云云

延喜の初年聖德太子ありたたり真言秘宗と弘法

觀賢淳祐おはく度主に良存傍心南都東又寺の傳記より

辺州志賀郡の人とあり相州大山寺の起起み相模の御屋太郎

太史時忠の子あり出延の屋に月をり乳母を懐く母の屋

ゆく意成知り人財主なり金之の誓冠あり赤子成乳母の室に

○八重櫻 古本を移し世々植然  
石の堂に在りて多量の櫻を植る

○影向石 日向あり觀者  
教向の石といふ

○倚子石 常人の安養を祈る  
寺跡に在りて故ある事あり

○南院毘沙門堂 石壇の上あり  
平基を築き毘沙門天を祀る

○食堂 下壇の地あり  
聖徳太子の御坐敷と云ふ

○蓮池 池跡あり  
元弘の亂に在りて築かれたり

○比良明神 影向石  
合堂の南あり初之為寺茶創の地

○不初明王 中むり  
龍藏権現の別社

○世之新觀音堂 中むり  
信尼の御坐敷

○厨伽井 偏出の地あり  
昔より觀音の御坐敷と云ふ

○天狗杉 山の入口あり  
あさひの護法林

○柳島 天狗杉の南あり  
嘉曆二年二月二日堂を創す

○谷川 泉飛雨洗聲聞  
夢葉落風吹色相秋

○奥門跡 跡あり  
今田圃と云ふ

○龍穴 實に塵外の仙窟  
早登の對法雨の振拂

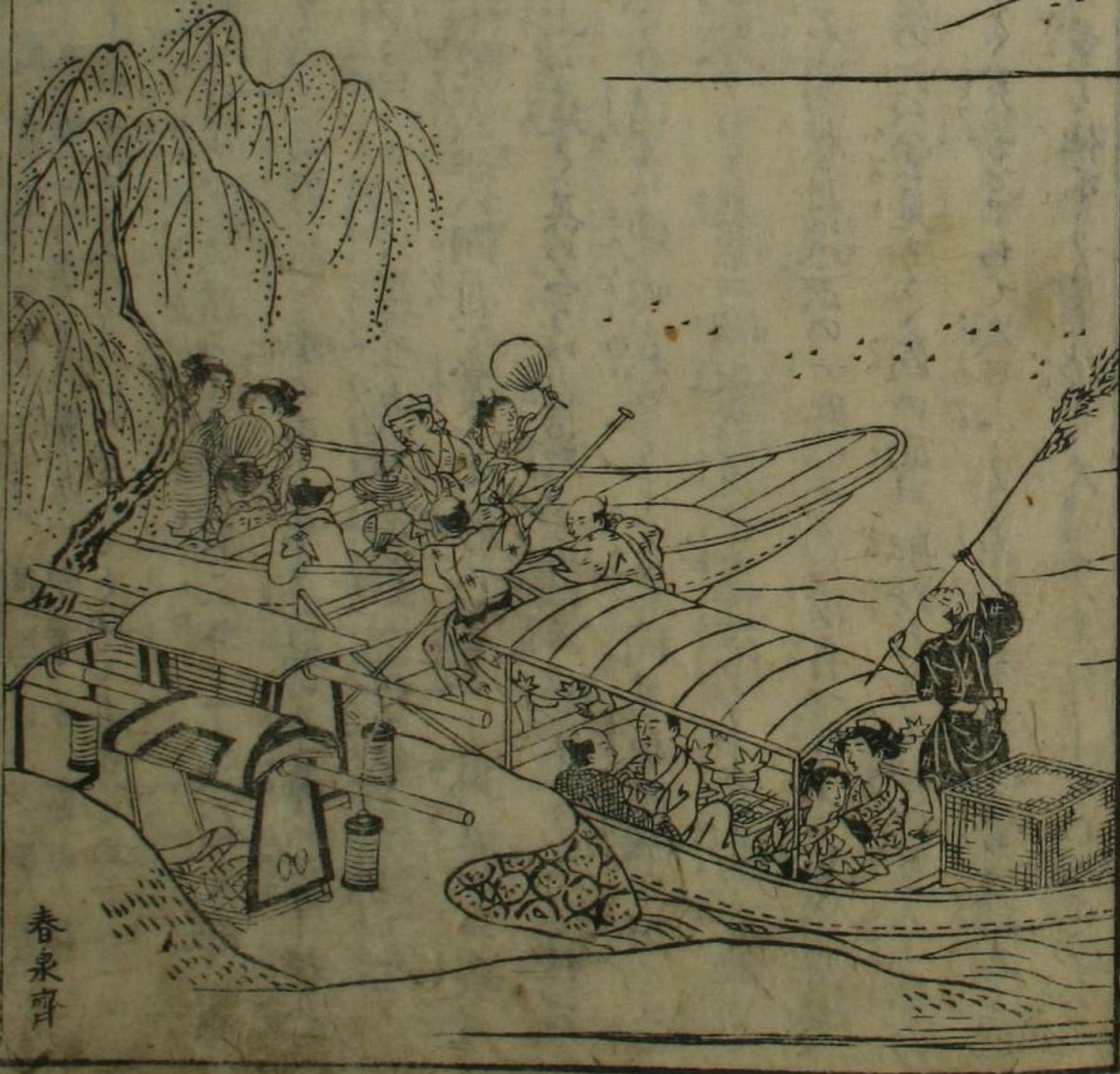
○尻掛石 穴の側あり  
穴の穴に懸る

○龍穴 實に塵外の仙窟  
早登の對法雨の振拂

○尻掛石 穴の側あり  
穴の穴に懸る



新古今  
 かくろの飛のやま  
 よみゆき  
 川ちとつ  
 ようの鐘の  
 のゆらん  
 ひろこちとね  
 茶の枕子  
 壬生忠見



春泉齋

石山  
 螢持

かくろ  
 見や  
 船頭  
 かほの  
 ろれ  
 もと



寺辺村

石山秋月  
詩相國寺林長老  
歌近衛園白時熙公

秋風蕭颯一一天涯霜滿四山不帶霞  
古木田田岩寒月影吟殘葉々霧中花  
いふや月影のうみたる月影いぬるも外ありぬら

石山寺を宗創より年業久遠あり延暦三并五も双びく郊あり  
一千有餘茶小建僧正良辨初と奉てあり五并五の布尊安持念  
寺の陸奥の金をくふより初く美金に貢る白髪神巖上小治と密く  
靈迹たる末示一宗式部湖月と賞と源氏と著一瑠瑠の古硯  
をむ本堂の巖上小建く其のくらの崔嵬なる巖石層々として移字  
寶塔前くみえたり後より連峰嶽々として岩間笠取礎礎よけき  
て峰嶽する中より雲霧あり霧の湖水の流は松林茫々として今古如く  
月と浴して古朱石の秋月の八景の一勝のあり漢舟つらありて供淨の瀨  
下し明月ははれのほの曇見とく河の面は船柱ひよ三弦の若今掃乃  
声梅のあまつとく美客とやちて大日ひより花雪曇幾子弟の叔とく  
名産とく石山の曇と他よりとも極く大キク先も強しあは凡土の春

西園巡礼もあみ来つて長旅の背に散る春宮坂途も共み歩混とく  
高気催快無しより古人の秀詠多く代々の勅撰も多く出たり  
三尺の童子がも智人の初め紙の表書き石山秋月と記すも貴とわく  
袂とかくし名勝と賞するの専あり謝莊の月の賦も清質の悠々  
たり瓜井澄暉の藹々たり瓜原に別宿纏ある事瓜楨ひ長河映と韜  
とをいあつたの事あり

石山寺の境日々一のあてとて  
は寒深る石山の名おとあんげゆ  
そは深きと心のをやはらぐんぬかもあはれひとりの声 若菜実方

○東寺ヶ寄  
大門の候より石山寺内湖の向ひむらりり殺生禁  
東寺ヶ寄ハ殊小

○螢谷  
石山寺より岩田寺の半にあり初夏の夜はは谷より螢多くあそ  
湖氷みりかむむらりさし所の舌観ん

○浮橋  
或は憂橋又浮身橋ともいふ螢谷より流は知る漢川の橋  
浮橋は古より名所とあんやたる

玉葉集 因融院の石山寺の九月晦日  
殿上人とてうたうといふ西まうてゆたらふ

亦たも少みちまはりのみすたぬわのさみわりのを者 若くは

源紀云寛和元年八月廿九日 因融院中がうらふふろをたすひく後十日一日  
石山寺の別所ありて尋常通りありて日徳寺ありて

○荒痛茶師

石山寺の別所ありて尋常通りありて日徳寺ありて

本尊石像深師日月光十二神將の像ありて源紀云延寶四年石山寺開殿の  
時龍女は堂に居りて其鬢髪と納りて今什寮とて又荒痛と

林の影系川流るは石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○空明菴

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○城墟

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○毘沙門堂

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○新宮明神

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○財川

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○岩向山正法寺

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○本尊千手観音

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○陀羅尼谷

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○御靈祠

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○系神大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○男依等

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○江將大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○是

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○別所

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○日本紀云

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて

○大友皇子

石山寺の御堂ありて其御堂の御堂ありて







蕉翁云くみこゝの茶月を屠く長明の方丈記に效く幻住菴の記に  
書れ一室九旬の石小一字が深多法第二十八品と書寫一里の口くを  
あの先と礫とを移る其債の糖菓とてその人多まね換く其功と遂ひの  
今おろし其は石土中より出ると其記文の末に

先ぬのむ椎の本もあり 夏本立

は一向を遺く閑素出榎の風流み着し生涯名利を棄て月雪小賦に  
中記中の社に近津尾八幡宮とて國分村の生土神と書武平の時時堂に  
一國分寺の廢く本尊茶師佛へ村中の道場あり又別保の茶師もつ  
少くくの宗へ汲をををもたは後在のち 椎の本の伯夫が廢り換り塔を  
膳下の檣橋へ勢多のちさぐら嶽の幻住居より東の方谷上山の峰にた  
千丈が嶽といふ岬の方ありといはゆるの高山千丈南千丈の二峯あり  
袴腰千丈が嶽より一里南ありて勢田川よりあたるなりと云  
そくと源々笠取山の石山と礫の中ありされは石山に暮候嶽

洛北の朗誦谷芳野の菩提水外山の方丈石をのみか同日の論の山居りて耕を  
釣月の隠逸あり

### 太神山不動寺

谷上山高峯あり又田上とも書及人谷上不動と称は

### 本尊不動明王

智龍大師の他長六尺高山の茶師の 法和帝乃所宇

全解八ツ峯あり八童子表ハハの谷ハハ龍王表ハハの一の老翁  
忽然とて隠れしは童子を待たせしに童子ありて其を  
不動明王と云はれしは童子を待たせしに童子ありて其を  
神明太神と云はれしは童子を待たせしに童子ありて其を  
又毎正月初八月廿二日より七ヶ日の間開扉あり

### 田上川

勢田川より谷上山へ北流し漢川あり古歩へ勢田川の源を流し又田上山  
田上里の古跡多し後頼口の山居あり中古跡あり今もあは

新古 月夜に田上川に流るるのふとれもみたり

新古 旅神とて言われやの寒くれん瓜本とつむ舟いとくあり

新古 火の先もくは成ふたり田上川乃わけはのくそら

新古 瓜をとりて行くと候る夜もれ田上河みよる時也

新古 桑の原分りて深丸の谷にけりて田上川に

新古 瓜をとりて行くと候る夜もれ田上河みよる時也

新古 桑の原分りて深丸の谷にけりて田上川に

新古 瓜をとりて行くと候る夜もれ田上河みよる時也



湖の宮に  
おのりて  
おのりて  
おのりて  
おのりて  
おのりて  
おのりて



下河邊維惠

秀郷に  
到りて  
龍宮



二ノ十七

勢田橋

志賀郡粟田郡の間に橋長二十間六橋長九十六間中橋あり

一名青柳橋和奇あり勢田橋或へり橋をりたの橋も海を

真本の板も海生をうり成りたり後世をわんせとの長橋 匡房

湖のうみや麓てくまの日月海も遠く勢との長橋 匡房

沖洞も波ぞきあつたの川中らのでこれ長橋もろろ 兼盛

さ波やうち物くまの白妙の若なりけりさるる長橋 惟賢上人

勢田を小の上のふみへく勢立つるせこの長橋 長雅

村は橋の帝城の要涯ありく古本殿夏の時引率えくあり保元平治

のり後河川安貞年中賀賀川供水く中瀬死の者多し武士

治ひ天文永祿の記及び太閤記勢田村野助と足くうり長後家懸

小巻の明智秀松の村賀武士山岡對馬古同英化の一族勢田の城

廣典記に若記し

勢田夕照 沙鳥風帆 帶タリ陽タリ陽人影 與橋長

秀郷祠

勢田橋東瓜あり後太秀郷の墓記る傳云秀郷姓を藤源

のり中龍あり又二上山小龍松の川くかの龍されし七具上と龍

龍其勢威と感し秀郷許寂しくく龍の勢を射く運に龍神

大に喜ひ秀郷と湖中龍宮小湧引く勢く恩に龍神

太刀鏡旗幕巻緒綱俵庖刀鐘心得童子を人

重寶とある後世の浦の城主依々本家依々又依々巻緒ハ共ハ取用く

龍神祠 龍宮城の傍に龍山州宇治橋の二の向みかたに龍の橋あり

天文年中の向割津土宗本寺阿弥陀佛の慈覺大師の化



ヒグチ

田上不動寺

長谷  
谷

俊頼  
古蹟

信長

湖水

和奇の名湖 湖は七十餘所あり

後年

風波する水海を晴く月かけ清く 沖津島山

老園白

日

きく波や月照のぬれ衣浦くせむくくぬ衣もほし

為氏

日

月夜の海や汀の子多新まきくぬぬ海むくくくひはく

龜山院

鼎

少夜の海やあてと夜さ初明み初明とみぬり乃乃舟

おは納言有光

新橋

月影もくく浦の秋あれは夕やくのまは煙くまふく

為家

新橋

湖の海や月の光はく川くは波の花も秋もみえたり

為隆

新橋

雲の浪相の波やあてのぬれ衣もあつむ湖乃海

後未校

新橋

湖水の一名湖の海或は淡海大宮ふちりた江とく辺江といひ又琵琶

琵琶

新橋

湖といふはれ形よりく新く東西十里南北二十里堅田より勢田

勢田

新橋

至くく甘肉く琵琶の鹿首小初たり勢田より宇治小初たり細く海老

海老

新橋

尾ふたより柱ま竹生流あり都く山谷の滴を八百八川勢田の下流供所

供所

新橋

黒付南郷と居く巖石高く聳く両岸の葎と鹿鹿といひ白浪漲り

白浪

勢田新と米濯といふは是れは古く宇治小入難波より大津小會次

湖水の名産多し中々細細江往細細勢田細堅田細氷奥の内膳

式多し供所と成其外給水往蟹観泥亀あはれ救くありは湖水

圍む水郷五百餘村佐々木百石みみ琵琶湖の圍むむく孝靈五年

一夜半地裂く湖と成同村富士山現はれ不二禪定より小迫江人成

先達小勸む善積一郡は己み湖とありく今ふく古来より護ふく

日本紀古事記にも見えんを述ぶるは想はく河流の水源細くく

山谷の中より流る家若み孔子路小謂く曰ま江の岷山若路く編か霞む

ほやとありは勢田川をれあはれく水源漸くく古来若朝た

うみと称するのへは琵琶湖ありて三國み又ありはか

建部神社

勢田小あり延喜式云名神大高國守一宮と称は

祭神大己貴命

貞觀九年七月十一日從四位下と授くと云

月輪池

月輪勢田小あり大龜川の東に池二ツあり



天弁

山に吹ふ  
 紀毒の  
 仲光



六玉川の中  
 聖跡玉川

新拾遺  
 さな麻の  
 萩小  
 月も  
 色は  
 聖跡の  
 玉川  
 本寺権師  
 仲光





聖路玉川 聖路里西の河あり道の傍に長サ武向半許中を石の堰造り小池

千載 ゆるもあや聖路の玉川秋越く色ある波小月夜とくりたる

聖路藤原 土人聖路村とりの 古本和尓の名所

後古 敷る聖路の志のやうに倦くさるに都と差なほ見れ

矢橋 勢田より山を里あり大津松本一き里の飯口は初ハ年歴久遠ありて志は 勢田將軍陣の時飯口は國所ありし事同記ありて今芝田氏流儀の支那に

矢橋歸帆 釣竿手熟白頭翁辛辛昔客船西又東 相國寺林長老

幾度風帆歸去後呂公榮達一盃中 近衛園自時照公

矢橋も海八景の其一ツありと風系録ありは向山比良四明の言根田吉の神社

矢橋坂の人家志賀浦屋敷松出出俣大津繁津の故栗津原とく

矢橋五のりは地生土神あり

鞭崎八幡宮 左神功皇后 社傳云天武天皇白鳳四年二月十一日大中臣

祭神應神天皇 右武内大臣 社傳云天武天皇白鳳四年二月十一日大中臣

元年十月二日右大將賴朝御上洛の時矢橋五のり馬上下り鞭を引りて馬

神社は五のりなる浦人答くあれを八幡大神と申上り右大將賴朝下馬

有る再拜しや故に鞭の号あり同四年八月賴朝之卜都繁藤五命

攝社 神明社 天満宮 子守勝女神

社頭古跡あり 白森 齋殿 勅使殿 社人談

石津寺 矢橋の飯口より寺町并あり

本尊薬師佛 初の奉安傳教大師比叡山五郎根中堂と建立

一辭あり後世流傳中江府東嶽山中堂を建管の時比叡尊

投函其石は新止る小

よめて石津寺と号け



兼昌  
 世この橋を  
 いそぐ  
 舟の波  
 矢橋の波  
 湖照や  
 矢橋



公朝  
 いそぐ舟人  
 のまを  
 出ぬ舟  
 矢橋の舟  
 矢橋の舟  
 矢橋

矢橋  
 渡口場

鞭寄  
八幡宮



石亭

石亭 石亭山田小あり 後唐より北門 許小室 海  
 山田波良村小内小築と多家久くと村翁ありけ人生得る年々より  
 和漢の名石を好み年々諸國より聚りあれと旅ふ年殺十年小違べり  
 佐右の形流風流みくを小松樹と樹いさ光あり青院石石流より外  
 兼詰瓜林と席上より遙か見たりは湖水を流れて日枝の石根産  
 の松直聖堅田志賀の都に於て神代小田矢橋のりし行々くく  
 みふけ亭とてかたがとある石神代の勾穂なるが我國諸州の産人の國に  
 産る石化石大狗の爪水入の紫水晶中をあり産る小筋又小首五ヶ所あり  
 塗籠小室藏より東都て二千餘石ありとを所謂晋の石鼓と叩き陶器の鱗  
 石小外夢徳が醒石ありて月小日朝小夕小も乃小愛海内其石をく四方  
 好事の宝貴とあり候とねくあり小駕成柱と殺の石瓜見り年々多し  
 予も巡行の序に立寄る石瓜觀る人の真入虫  
 和漢の名石ありてありて是を産る産る  
 故より其所の二とありて圖とあり

濃州産  
月珠石



羽州産  
羅漢石



加州産  
五曠



濃州産  
候松石



春泉齋

山田石亭石  
古今の石名家ありて  
奇石怪石数多し  
都て二千余种あり  
み其子の二三は圖  
そののて海内名  
ありたりて  
観るは  
邦より持ち来り  
楽み  
み  
師曠石能言  
とい

家寶あり

濃州産  
石膽實



琉球産  
石柏葉



琉球珊瑚



豊國産  
石柱芝

鉄樹



濃州産  
燕子石



濃州産  
玄龍石



山田名産の  
 名産として後名と物  
 花は花の玉  
 七月の月  
 下給小用  
 金日  
 月  
 又



華洋醫富令  
 白井直賢

步倦驛亭遐  
 茲休賣餅家  
 出門還跨馬  
 到處鼓吟牙  
 熊谷立肉



喜風の  
 吹平  
 伊は  
 あづし  
 さたう  
 うけ  
 好  
 うら  
 うら





七田友汀寫

七田



琉人泊  
草津驛  
觀駒井  
氏之活  
人石

中  
山

二ノ九

草津

石部を代里半七町... 本曾海道中仙道名...

立本明神祠

宿中... 神人小野氏...

祭神

和州春日明神... 和州の神...

常善寺

和州中... 成善提院...

本尊阿弥陀佛

和州長... 尺余脇士...

寺説云... 後の松西... 故云云...

活人石

或云云... 活人石... 出今...

化石之... 根若... 長駒... 方と...

前権大納言藤原愛親

系川

常... 月川... 系川...

原山

原山... 月川...



天保... 本名六地蔵村あり... 和申散の業... 軒許あり

梅本 是齊と本家とあり

本尊山観音 長八尺を徳太子の御代開祖久遠うてあり度荒廢の

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

梅本 是齊と本家とあり

御上神社 九条の内名神大月次新嘗類聚園史云貞観十七年授從二位

祭神 伊弉諾尊 息長水依比賣 生五柱皇子云云 社説云元正天皇

神 少らみうとれふゆふけて祈さひつた乃 ねやさりてん

櫻山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

二上山 二上山の嶺南嶺村小坂村とあり

東海道  
直入  
岐岨路  
名護屋  
中仙



春泉齋

東海道  
津分



二ノ三十二

新普光寺

高野郷林村のあり  
作古宗鎮西派

本尊三尊弥陀佛

長き尺六寸二菩薩を尺  
佐川普光の如く

寺説云仁治年中は地味小松を信門尉宗定といひ出立あり  
往生成つての願ひ信州普光寺の四十八夜路あり  
夜の爰小生身の三尊神現る石の石小施無畏の作た  
菩薩も共々寶冠を戴き般若の字をひ端敷微ぬり  
蘇りなり是は致身の如く之を致さる  
も同爰と見しは致身の神像宗定は徳付それより故郷  
なり一字を建く新普光寺  
くや名づけたり

石部

水口を三理十武町驛の端金山村あり中古銅山坑あり  
石部の金山といふ今の上道八十年前開く所下道はむくの  
まは海道よりくたな横田川の流あり

石部鹿鹽上神社

中田向鎮坐に延喜式内之今兩社く下下の社  
古名鹿神上の社と名鹿鹿神土人虚空蔵と林及宗神

金勝寺

金勝村の山頂あり石部より一里許あり聖武帝の所願あり  
後後傍正の向基之後世極盛一宇二王あり

厨加水調貢

海年正月十五日禁裏神術の供所調貢あり  
昔小つたに土人云は水なる時あり過て流は故に里に水  
汲て水玉走りて散り故に震巖

其水と名づけたり  
震巖  
二ノ三十三

目川

目川と村の名  
あれと今も名お  
の某祭田樂  
豆腐此名不  
獲ひての園も  
目川の店ま  
豆腐百粒の種  
とあるもゆれ  
全盛あり





梅本 ひめのと

新の名称 ひめのと 梅本  
 氏北 ひめのと 氏北  
 家の名 ひめのと 家の名  
 女 ひめのと 女  
 小田原の外 ひめのと 小田原の外  
 た ひめのと た



金勝山  
震巖

金勝寺山の  
震巖は數十人の  
つらつらの門く  
初せども是も  
初げえと傳て  
僅な指頭とて  
押せば忽ち  
初くあり



揮塵録小曰  
宋の政和年中  
岳壁縣より  
一巨石を貢ぐ  
高廿六余丈  
これ灰解とも  
初げ或人の云これ  
神物と云ふ  
表幣と云ふ故に  
題して慶雲萬熊と  
号して金帝とて  
其上に掛て初とて  
風刺りて花中  
至るまじの疾や  
比せん



阿弥陀寺 金勝村小の金勝山と併次津土宗也 七谷とりの出谷開寂の地

本尊阿弥陀佛 文明十八年宗廟上人の建立足利義尚公の信ありて後土御門院

西寺 甲賀郡西寺村小あり石部より十餘町南之阿星山 常樂寺と号次坊舎の古礎多し

本尊如意輪観音 後醍醐天皇の勅願長谷傍正の扁基之仲殿三層塔 樓門金剛がこと安次堂形併依古代の化あり

東寺 同郡東寺村小あり阿星山長壽寺と号次あまの西南に阿星ヶ嶽と 同郡東寺村小あり阿星山長壽寺と号次あまの西南に阿星ヶ嶽と

本尊地藏尊 存基大士の化聖武帝の勅願所ありて古代の併殿今も 存基大士の化聖武帝の勅願所ありて古代の併殿今も

大石塔 聖武帝天皇の御骨と藏りし所なり 聖武帝天皇の御骨と藏りし所なり

鬼籠 正月十五日夜に赤鬼黒鬼の面を被り鬼の舞をとり式あり併あまの 正月十五日夜に赤鬼黒鬼の面を被り鬼の舞をとり式あり併あまの

榎櫻 堂あり小あり右大將頼朝より江州檜物庄と号附 堂あり小あり右大將頼朝より江州檜物庄と号附

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

美松 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平 街道筋平松村小あり又松尾の林洞あり仁壽年中後承頼平

妙感寺 三雲村の南妙感寺村あり禪宗陶基初益神光寂照禪師俗姓 三雲村の南妙感寺村あり禪宗陶基初益神光寂照禪師俗姓

本尊千手観音 長七寸佛定朝の化後醍醐天皇より後醍醐寺に給入 長七寸佛定朝の化後醍醐天皇より後醍醐寺に給入

万里小路藤房卿終焉地 あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり

万里小路藤房卿終焉地 あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり

万里小路藤房卿終焉地 あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり

万里小路藤房卿終焉地 あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり

万里小路藤房卿終焉地 あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり あまの古墳あり建武二年後醍醐寺に講奏あり

太平記及び吉野拾遺不及より老後いふにけ入帝より賜りて一善の徳に成る

世のうをよとす其の奥深くて月明けやふとの友 若房の

かく傳へて其の錫杖をりて津波十一年に建てて遠く康曆二年三月廿八日遷化し

横田川 田門村の東あり横田川村の畧若之水源に甲斐谷の諸流會し

獄門岩 二人の首系都へける時役まきく小嶋入といふ

梵字石 道より山上百歩許あり相傳へ傳教大師梵字の二字は自書し

岩根山善水寺 横田川の水岩根山あり

本尊薬師佛 勝土相元月光十二神將四天王

大師堂 境内小あり 鎮守 六前権現 閻伽井 本堂の基石

百傳池 本堂の傍 思川 岩根山の麓小東より西へ流る

百傳の岩根の池ふかく鴨がたのこをてやまのうれあふ

くちふいそをうん百傳の岩根乃池れふ吹のうふ

わい川のきあるる根の池あれは波もふ代の敷ふは川流ん

二ノ年七

岩根山 此の最高峰十二坊葛とて一壺あり十二坊あり其古礎あり

比良の岩日枝の多根幸傳の松山田夫橋野田橋石山寺谷上甲賀山

飯道寺山を隈なく見たりく日光のみと佳境あり

いふふもくく若代の岩根のふれ孝乃若松 後成

嘆息のつらさの峰の巻うらまるとされとく人かふ

くくさのさう成てはぬいりのふれ松のみとりら 實政

寺記云 元明帝の勅願ありて和銅寺と號し殿后延暦中傳教大師

比叡山根本中堂と營りて附け山の良材を伐りて横田川小筏して敷嶽に達

せんを其年早懸くくは小水かへ大師堂山へてりて百傳池小橋茶圃

出たり其茶圃良茶金留の四字あり大師希池中を探りて論浮檀金をす

八歩の茶師佛と傳りてまは瓜茶尊くして信爾の法を傳りて水満をくく

良初み坂を過麻浦み着せり大師あり梵刹を創り勅を奉て之の茶師佛と傳り

金徳を體中へ藏む台鎮の宗風あり醫王善遊の善水の徳を善水とて稱り

善水

平松山 松

松木を中ふ  
け更松と云ふ  
極す

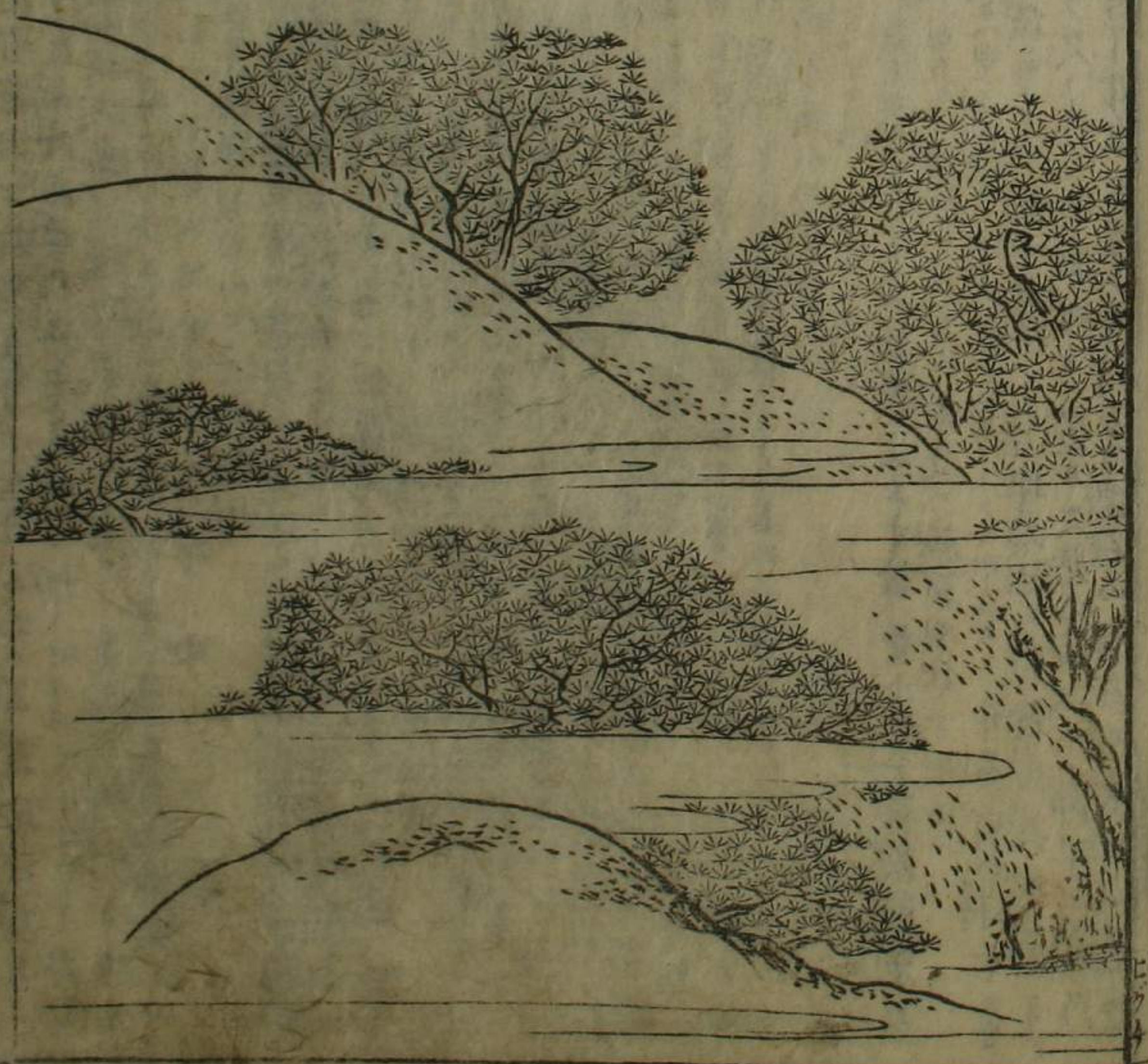
うめく  
松のくわおれ  
右まふん  
うめく傘の  
枝ふりうめく

斑井



三十八

右後まへ 偃蓋山の  
松ハ蓋此れ  
松樹の中此れ  
まのへふの松  
ふて此れ







本堂 茶師弥陀釋迦 十二神將安次 大師堂 元三大師也

多財文祠 嵩山金剛院平安次い多依い加藤ふあ〜織田信長の持尊之

大黒天像 御座諸堂建立お及ぶいきき後月毎に院中せりり

白山権現祠 山王の傍

藏王堂 山の才腹 末社十八名 嵩山前を 影向石 本堂の上

護法石 本堂の小 龍池 本社の下 関伽井 関伽井谷

鐘樓 南谷小白谷の林の祠あり首 杖柱 水口道の傍

足跡石 杖柱あり 石南善谷 杖柱あり 満善谷

道標石 八百比丘の 山伏落 本社の後 險難の世あり 嵩山 悪徳あれい

押當台の岡陣 元明帝和銅七年八月十五日大童妙相成現し甲賀

郡聳嶽 母堂を授建し 杖向にきり 齊宮ふといふあり 慈聖権現乃

靈岩 此あり 嵩山に其若小云飯と盛る形路傍小見ゆりてとせり

齊宮の登山 小柳の花飯と盛る形見ゆりと道の標と〜とせり

向石の側 然登之 権現と勸法後故 飯道神社と辨次殿后 聖武帝

信樂宮小遷都 一山王城の鬼門守護と〜天平十五年 南都

興福寺の安岐法師登山 伽藍と造立〜と 赤部の産場也と

文徳帝の所宇 多飯道神社 且位官に授け 醍醐の聖寶尊師 徒也

嵩山若本坊梅本坊和州大崎 且隨身供と〜中興はけ時九月五日

今に至つては 日笠と負く社若 一渡り例式とたれ 後波〜と

當山の岡基 良辨僧正 安岐安岐之世 相續て 任職〜と 中興は光定大師

近衛院之安年中 飯道権現の勅額と賜〜と 今室藏は時甲賀

の惣社と成 織田信長の祈願と信ありと 登山〜と 多井坊小斎宿

神領と寄附あり 末古記 且足らうとこれい 山大崎葛城 且ありと 山姥

峰 嵯峨〜と 光杉坊齋と 梵字寂冥〜と 若藪蒼く 丹毒の傍の 難

且室〜と 見れと 神徳い〜と 今もま〜と せりれと せり



飯道寺

山上庚申 水口より南を里山土村ありあけり登る年十八町山頂也

青面金剛童子 傳教大師の化身也鎌倉延暦年中大師比叡山根神堂之

甲賀谷の一名松谷といふ又砥之尾といふ氏村小大師初く伽藍を建す古跡

辨慶背鏡石 水口の東を里小里村あり日清小 義経腰掛石 日清小

義朝洗首水 水口の西を里小里村あり日清小 義経腰掛石 日清小

山口重成碑 右の首をいひ水の傍あり山口志を清重成の墓に慶長中の人

慈安寺 あり村あり神宗字法 延暦山末風人 隆水尾 神宗御成

松尾川 松尾村の端あり一名内白川といふ土山の田村川と

土山

坂の下まき武里半西立湯多賀神社一系法道の標石ありまねり

田村明神祠 土山の駅北東あり縣中東の方北生土神とい

祭神 中央將軍田村兼相殿東の方嶮嶮天皇

本地堂 千の観者也 末社 稲荷 弁天 神速の家 あり小三町

神寶 田村將軍傳花結小鬼次根あり又能麻作あり傳小画叙ありく彩色

綱御將軍家より賜る 玲瓏なる名品あり

丈草社 鎮坐の年登回記は所見あり 往昔延暦年中奥州安部高元王命

小坂一六田村將軍退討して駿州清見園を對してありあま合戦の時清水

観る蓋験の幸あり又一休和尚はをてゆきの時強盗を遇り幸陽難記

とさう又田村の謡曲は田村九鈴麻の鬼神退治の事伝せりあり之附會して

神祠成建るといふなり 或か三正の夜を國安土山に織田信長を威の付田村側

遺りありあれり田村の社ありひりひり選あかり今に里人安土街道あり

近郷ありを路傍小祠とす 押田村將軍の傳は續日本紀王代一覽を言釋書等

見へられ詳記する不逮は田村倉へ 桓武帝の外戚あり忠肝義膽の人

且勇威ありく一ひ眼を張て怒るを猛獸も身と編り四足と盤む一ひ笑あり

幼児も親しく是母のめくと面貌ありくを懸るく園羽のめくとさそを

鬼伝 従一とつ人古に多くす川 天智帝の沖時逆長藤原千方へ金鬼  
風鬼水鬼隠形鬼の四鬼伝隨く伊賀伊勢の同母を王命小背く紀友雄  
小詔あつて千方討ひ友雄一首の歌を詠く故軍一賜付

弟も本も赤大君の困多れをひげく鬼のともあるをた

鬼等あれと喰い感初してみふちをく去りたる千方勢をて友雄討まぬ

後小角呪縛して若鬼後鬼と従一源頼光四天王と連て入江山の鬼神を戮し

波も綱へ羅城門鬼の腕と斬平維茂戸隠山の鬼伝誅け田村舎延脣

十六年十月従四位下征夷大將軍小叙弘仁三年九月大納言右大將と成く

逝去は年五十四 天子百源園入る唐魏徴小比く爪牙の長古墳へ山州

山科の南栗栖をみあり若羽山清水寺を坂上田村堂と称しあり原田名高

座止又さる座をともい故もさる座明神の宣令あり神威靈驗日々小形あり

田村川 水原智州古成聖の山中より流く松尾横田小

解 坂 賊の樹の嶮地たのんく山賊の嶮人且暴逆し山賊七あり埋む

ひは入道とを頼むお中より岩の上を横むひまへく

近郷園博 櫻村立場の入口小近江伊勢

鈴麻山 阪路八町七曲一名

世もふれれ又も就たり鈴麻山ひうの今に成るあるん

とくうふうたふをそにう捨くいつに成行我身をあそん

鈴麻園 下紅葉のうつく小あつてさうふ時西のいさくふれぬる人

ふるはふふれえぬれとさうふ若を園の戸さう成る也

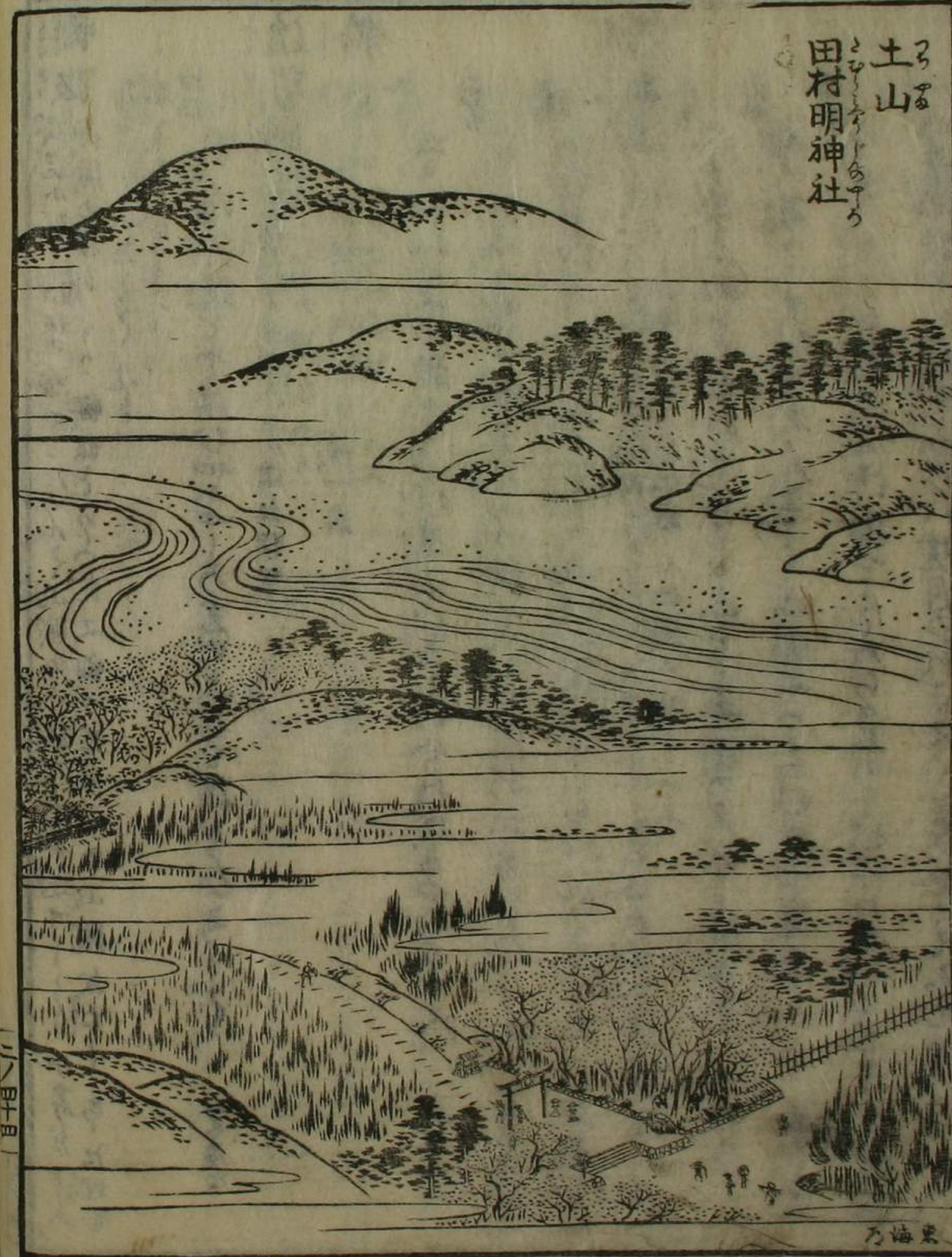
ぬく捨くふれえぬれとさうふ園やふれ月も守たり

今宵いさうの驛海み津興とさめらる木の下れ木にぬれくさして飯麻

の差路解きすの嵐もさるれ曉月の教さえくまの物ともみえん



二ツナ



土山  
田村明神社

八十八日

乃海虫



親者の千代  
 夫の酒  
 鬼殺し  
 新巻



田村將軍  
 谷原の鬼林  
 退治の末  
 実証あり  
 久しく世の  
 人は膽寒  
 さん  
 せん  
 の  
 体  
 の  
 力  
 あり

鈴鹿神社

勢州鈴鹿郡鈴鹿山あり延喜式神名帳小戸山神社  
坂下取中の生土神例祭二月八日

鈴鹿川より下りて八神路山神系分ち出る月一ツ

傍正の意

祭神三座

中央瀨織津媛命 左右小美吹戸命 瀨羅津媛命  
相殿倭姫命

鈴鹿社

系神内外太神宮天神地祇  
百鬼神と祀す

攝社

又山祇命 稻荷  
愛宕

頓宮殿

石燈の右の方

新勅

各宮郡のそとに於官あり旅の舟よりみゆる

權正の意

いそぐともくくはふん旅杯とる芦のゆりやみお景散々り

羅山子神社考云當社の傳記にむろろ天智天皇即位と皇弟淨見原親王

小禰とせ給ふ然る皇太子大友軍を遣して清見原宮に襲ふ皇弟吉野に遁

隱す其より伊賀國を越てけしとて小戸到りて紫の庭と造る翁と焼あり

皇弟吉野宮より入給はくくと見たり君に王位龍顏みられ侍り侍り

ひとりのお姫と持たりおれも君小相倣く其相貴くとく皇弟吉野宮に別殿愛

育く我をそへ先帝の皇弟淨見原親王の大友の乱と避くまふ到ると宣ふ

致礼し跪く云皇祖 天照太孫五十鈴川の上には侍り侍り君に其後裔あり

二ノ四十五

こははく緒をへり尋ね供奉して治るゆふ大雨頻りて鈴鹿川の水漲出

流る事少く波対小鹿二頭本ぞ首ぞうかふはまふ小乗と安くとつたり

おれり會鹿海といひおれり今のお神あり一厥后皇弟皇濃國に入る白鳳元年

東國の兵災起ると大友皇子を滅す天位小孫のまはれ天武天皇とを申す

八十瀬川 一名鈴鹿川海道のたみかぐれ又右に流る

初勅 ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

詞苑 又月夜の目成る侍りて鈴鹿川八十瀬の浪を立侍りたり

王業 ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

新法古 ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

曙記 ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

八日之曉卯の時よりふとて立川瀬の波芳まむと流る初月を果すと云ふ

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

琴之橋 又関縣中にも同名の橋あり

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜

ちり初といくふありぬきとる八十瀬もきぬ八月の夜





後十  
 正らふ  
 明方  
 ちくた  
 天の戸と  
 うり出ては  
 けりては  
 老後雅育

ヒグチ



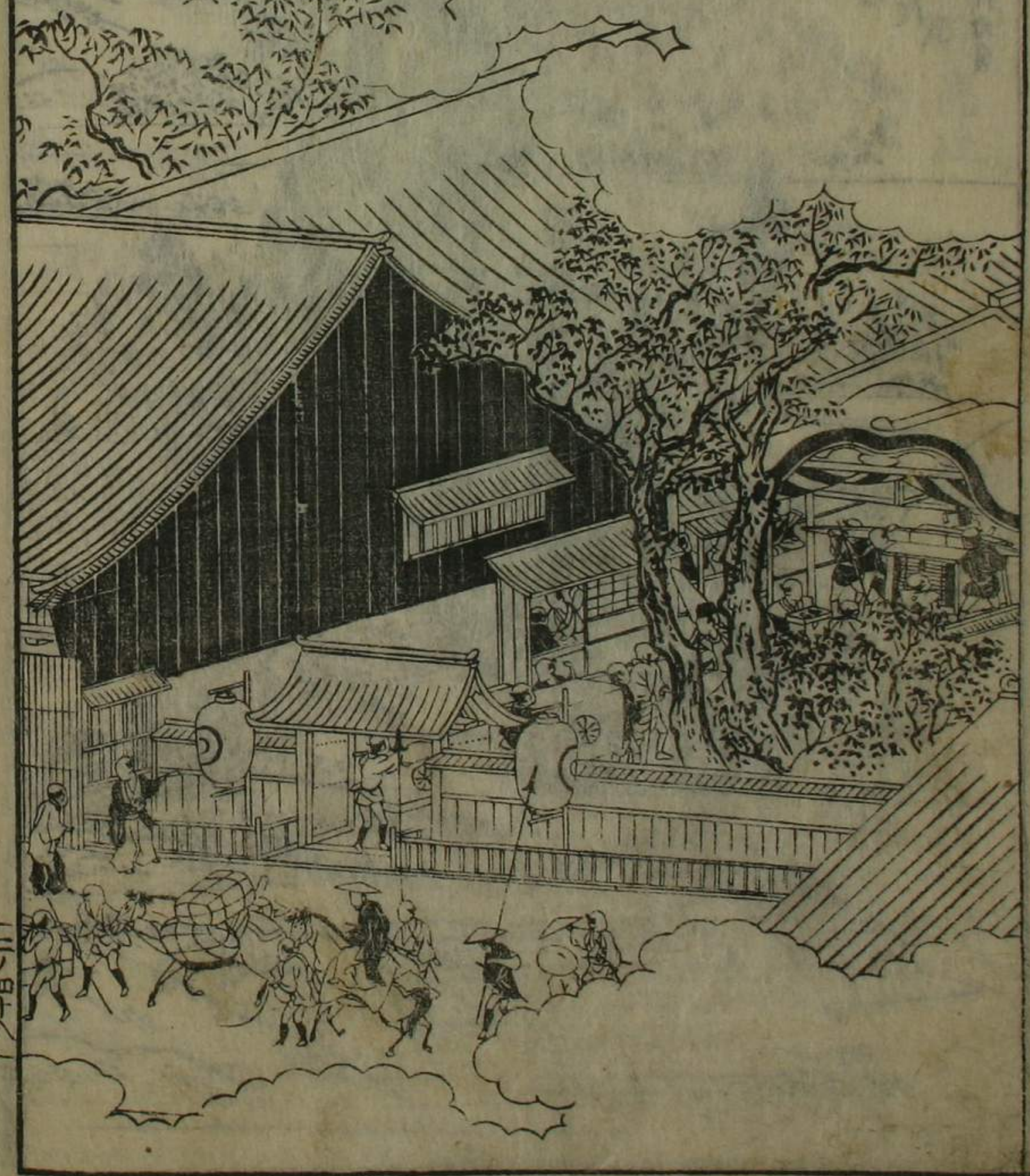
鈴鹿社  
 鈴鹿の社

二ノ田十七

麻呂の  
 火のあたる火燵  
 やつらつら  
 門の入り湯桶  
 調く  
 襦袢  
 又は荷  
 旅人や  
 睡入りの  
 故  
 けり



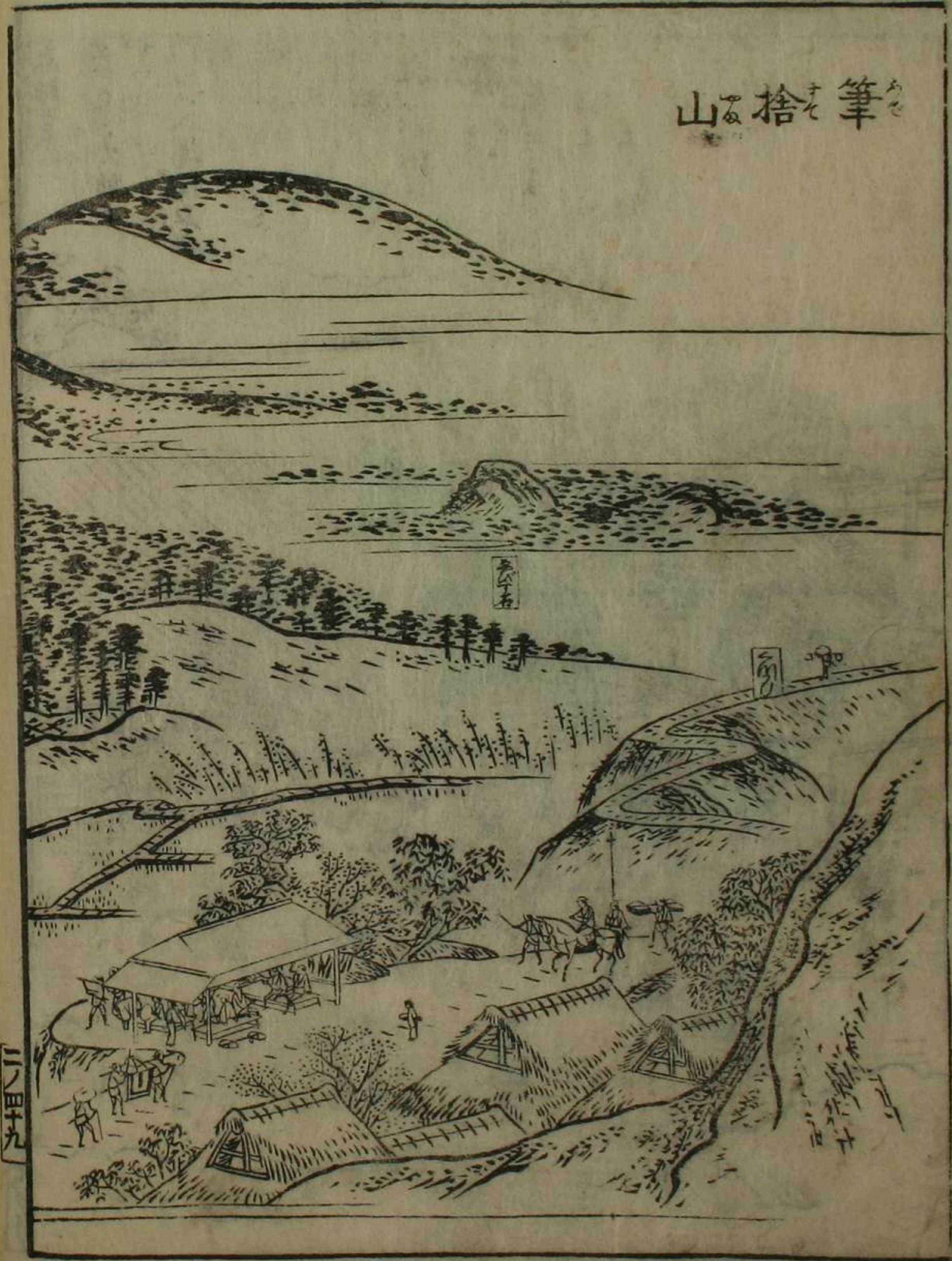
飯の下  
 驛  
 大竹小竹  
 大なる  
 旅舎  
 本陣  
 本陣  
 立老  
 旅の賊  
 上原



猪の窟  
 筆捨所  
 拾  
 圖  
 法眼  
 去品



筆捨山



三四九

**坂下**

**茶**

冷鹿坂下の園をき里半の園といふ人、淡蘇社の下にありし、慶安の比水難  
 小より今の地に移り、宿の卒陣の跡をくゞりて、世々名を「正平中」より  
 かくに住し、小津田六郎といひ、其後、松太弟の終り、慶長年中より  
 今の高登氏尾別より、かくに集りて相續に  
 此宿の西に方に岩窟あり、中小三軒の石仲と安にあり、此中法安寺六世  
 密服和尚元禄年中の造立なり

**捨山** 瀬川の西にあり、海道の左に方に、藤八十瀬川と帯ふ山頭より、所々小  
 岩あり、其間をみか古松ありて、枝葉屈曲あり、松のぬき、本名は  
 岩根山といひ、里流云、お吉法師、東國通りの時、此の風景を画にし、  
 てんやと、お吉法師といふ、お吉法師、山向に、お吉法師、捨しとせ

それ、此の藤八十瀬川と帯ふ蒼松の黛を濃め、く、奇岩跡をみあり、  
 て松根あり、石に曲り、枝をわたり、朝の霧、く、小琴瑟の聲、静夜  
 の雨、凄々、く、月のひけ、小龍蛇の形、あり、く、鶴の声、小君子の徳、を、表は、茶を  
 秦帝のゑと、浸を、花に、定妃のま、ま、老う、け、山脈、は、た、く、岩根、乃、東方に  
 大黒石、松子石、観音岩、女ま岩、か、と、形、あり、く、名、小、ゆ、み、か、山腰、に、あり  
 崎石、街道の左にあり、む、山峯、より、く、小、崎、ひ、落、る、と、せ、又、向、入、中、く  
 錫杖、嶽、嶽、と、聳、て、風、を、斜、あり、く、吾妻の通り、泰宮の貴賤、す、け、あり、  
 總、く、時、瓜、う、川、を、の、傍、地、と

**關**

龜山(きり)里半の園の入口、古城あり、園氏築し、とせ、い、み、一、は、所、み、於、藤、園、あり、山、頭、  
 園守、第、の、古、跡、あり、又、右、方、に、伊、賀、大、知、の、街道、あり、お、ん、な、加、ち、城、と、り、入、元、弘、の  
 後、醍醐天皇、置、置、城、小、籠、中、に、東、軍、陶、山、小、見、山、は、道、より、思、て、皇、居、に  
 襲、り、り、お、討、せ、道、之、宿、の、左、に、観、音、堂、あり、此、宿、に、引、火、奴、の、名、あり、  
 かく、く、ひ、ま、を、作、り、ひ、み、關、城、と、い、く、に、あり、ぬ、古、口、乃、を、 詳、月、法師

紀り  
 わ、さ、さ、い、は、く、遠、く、を、そ、は、園、と、い、し、里、に、く、さ、ふ、り、 右、村、口

**惠積櫻** 宿中氏家のお蔵にあり、む、の、街道、筋、あり、く、地、と、通、り、く、は、近、隣、  
 井口氏の家、お、観、音、堂、と、い、く、名、酒、と、お、ん、飯、夫、の、謗、あり、ん、 定、家

**九園山寶藏寺地藏院**

園驛の中向ふあり  
 真言宗  
 本尊地藏尊 張之尺六寸、傍正り、基の祀、在、佛、之、境内、  
 愛染堂、繪、堂、あり、  
 寺記云  
 皇武天皇、天、平、十、三、年、の、に、海、内、瘧、流、り、し、て、人、民、に、な、り、病、苦、を、  
 速、小、病、難、を、救、へ、と、い、く、地、藏、尊、を、刻、し、病、苦、除、滅、の、加持、一、七、日、及、ひ  
 貴、賤、不、地、藏、の、名、号、を、唱、え、を、護、法、の、印、と、彫、刻、し、善、施、し、又、病、患、忽、小、平、愈、に、  
 又、又、長、元、年、の、に、は、ひ、應、宣、傍、都、と、く、徳、り、を、た、り、者、あり、け、地、藏、尊、の、靈、告、  
 と、夢、に、夢、小、冥、途、と、い、く、の、地、獄、の、極、火、を、く、青、蓮、華、と、現、と、を、世、を、





地藏不及招嫖榮  
 欲買相談約束成  
 寐處蒲團繞一牧  
 來時太嚴已三更  
 羅縐寶帶數千蟲  
 雲雨巫山二百情  
 昨夜幻妻今晚見  
 目珠飛出頰如蠶  
 胴脈

泊園  
 買招嫖



月溪寫



二ノ五

三ノ四

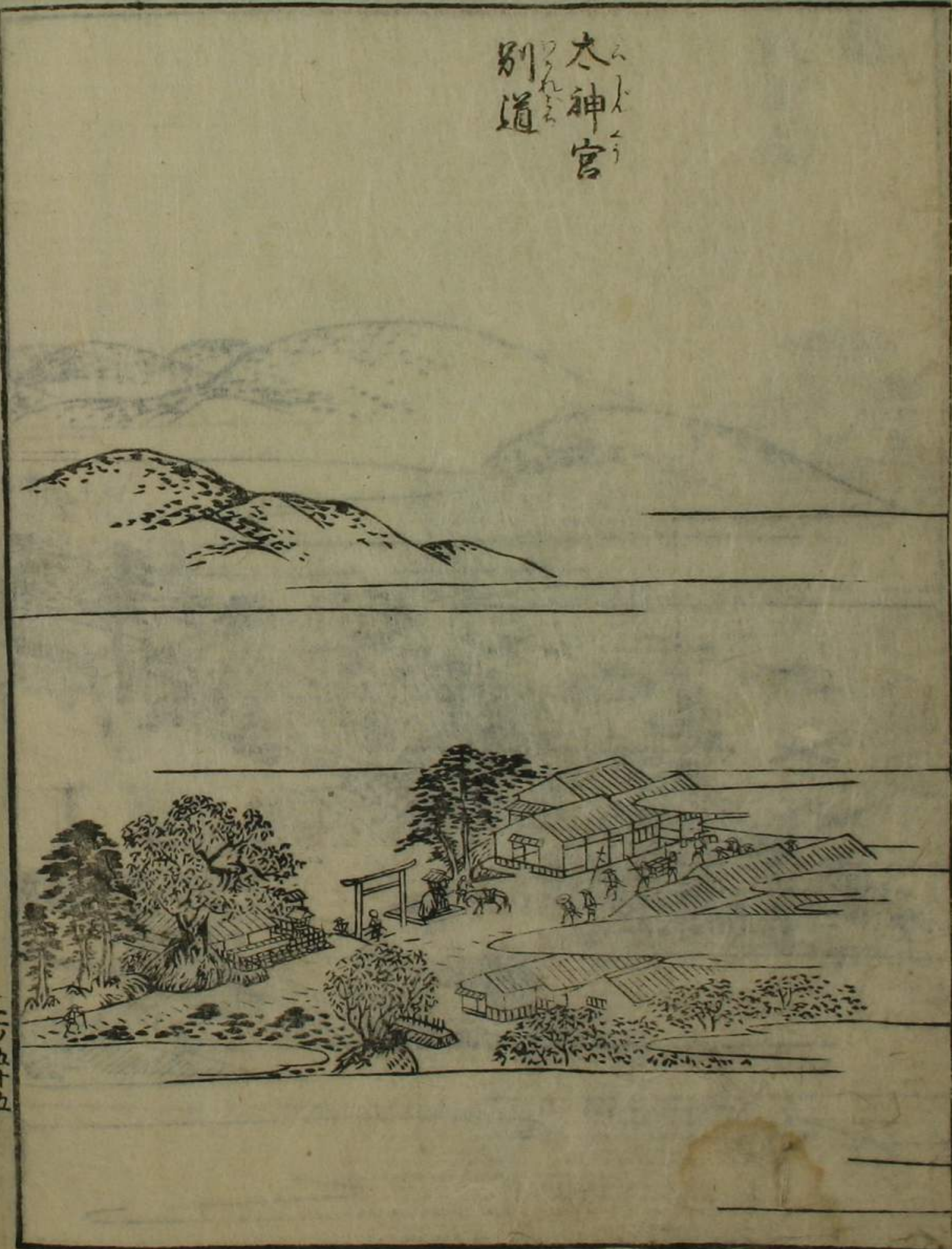


石園  
地藏院





大神宮  
別道



糸官道

山田外官道を十四里を歩くと神燈標石あり伊勢糸官道の終りなり

出羽森

出羽森の村あり森あり川あり黒権現の窟あり右に黒山といふ

古馬屋

神馬の村あり古馬屋といふ

布氣神社

聖尼村の布氣神社あり今皇館太神宮と総て例永六月廿一日

龜山

今石川度立城あり

森下

中富田村の門八王子祠あり

海邊に風をそそぐ

庄野

石原村と庄野の村あり名馬生味の出所といふ

白鳥塚

白鳥塚の村あり

又これより神の方に高サ式尺東西六尺半申尺許に石が立つてあり又奉養家といふものあり

新土人ホテ塚と云ふ又後道の傍に石造の小祠あり  
少々堂と云ふ今多々推測されぬ又其祠より  
石造の堂あり  
をいふあり

古事記曰

日本建尊自阿豆麻幸行而到能煩野之時思國以  
歌曰夜麻登波久示能麻本呂波多多那豆久阿表  
加岐夜麻基母禮流夜麻登志宇流波斯又歌曰  
伊能知能麻多那牟比登波多多美許母弊具理能  
夜麻能久麻加志賀波表宇受尔佐勢曾能古此  
歌者思國也又歌曰波斯那夜斯和岐弊能迦多  
由久毛草多知久母此者斤歌也此時御病甚急  
尔御歌曰表登賣能登許能辨尔和賀淤岐斯都流  
岐能多知曾能多知波夜歌竟而即崩尔貢上驛  
使於是坐倭后等及御子等諸下到而作御陵即匍  
匍迴其地之那豆岐田而哭云云

三ノ五十六

夫日本武尊景行天皇の皇子なりて母ハ播磨國日太即姫之初の名を

小碓命と申し其名倭男具那命なり西の方熊曾建の女入勅小碓命を

は尊童女の姿小身と称し其家に入て酒宴し懐より劔をかき見貴の

者公平けや人は是より倭建命と称し其後東の方十二ヶ國の荒夷公まげ

御凱陣の道より御悩ありて終ふに能復所より崩し中平年二十歳なり

天皇小哭し御群臣小命とてあに葬しあり忽然とて靈白鳥と化し

て倭國小飛り郡臣具棺と南にを明夜より墓を屍おれり因茲

大和の琴彈原小陵と作る白鳥更飛り河内國古市邑に至り又其所小

陵と号す時の人け三陵と號し白鳥の陵といふ要ハ日本紀ふる人より

和名國大郡人多社小日本武尊の靈なる

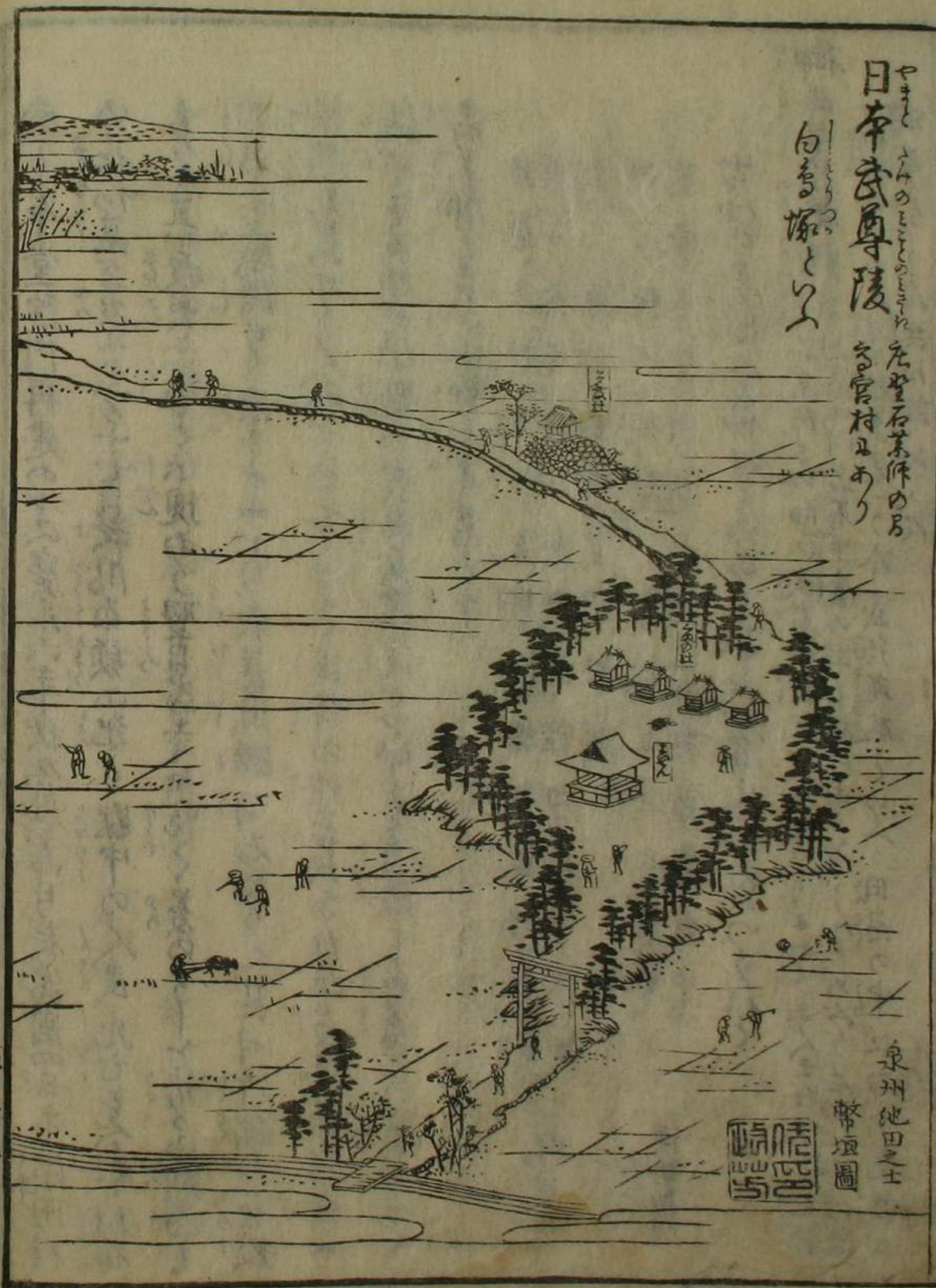
高富山瑠璃光院石薬師寺

石薬師歌のあまのり  
真言宗  
本尊石佛薬師如来  
長七尺八寸泰澄弘法大師感得のま像なり  
寺記云  
岩面石なり川に彫像なり  
崇徳寺尊像金輪涼より出現の靈石なり  
聖武帝の所宇神龜年中誠の

泰澄は所を通りやみ、並光暉々たるを所とてお中へに泰然と樹林の中より異香薫り十二神將ありてたはひ一箇の赤石を捧ぐ泰澄感懐しゆひ末世の衆生利益の爲正しく、醫王尊の示現とて速小一字を創し、靈石を安んず其後弘法大師泰澄の蹟と追ひ靈石をとりて醫王の尊躰を彫刻し相好を満しゆて肉眼供養ある其より靈應日々新あり遠近の敬禮猶麻のぬけ由、嵯峨帝の敷聞に達し精舎僧房營建ありて寺奉公者の中古者永兵乱の以蒲冠者範頼は上洛の時ありて治し丹誠を凝し武運を擲りひ鞭を倒みしと云ふ事今小枝系榮より近く天正の兵變に罹り佛閣一時の燼とある幸小本尊の災と免と燼中み恙なく傳しゆく其頃の住職圓賢法字智徳の沙門みくある時差中示現ありて秘法を教へる精茶と加持し世上與之病難成と云ひ殊に乳汁をた婦人出る事能のわし法字差覺と教のぬく世弘ひおはる系解の八割米とて一柳直盛度當國神戸居城の時授々の奇特と

感し本堂院内再建の又慶永六年秋九月十四日、夜當國四日市淡田村の長河某が夢み來り十七日秋風頻小起り馭中の人民死亡と云ふと村崔多く其夜夢み代りて示現あり燈目當寺に信く夢のよと語ふ別當も同夢と感得せり果して十七日夜暴風驟雨をたりて其時竹林乃崔數千羽死落せり人みかあんとて追悼の作善をなすは盡應具以世に流布する所之は驛の舊号高富といひて自然と盡尊公賞とて石茶師とて山勢高富といふ

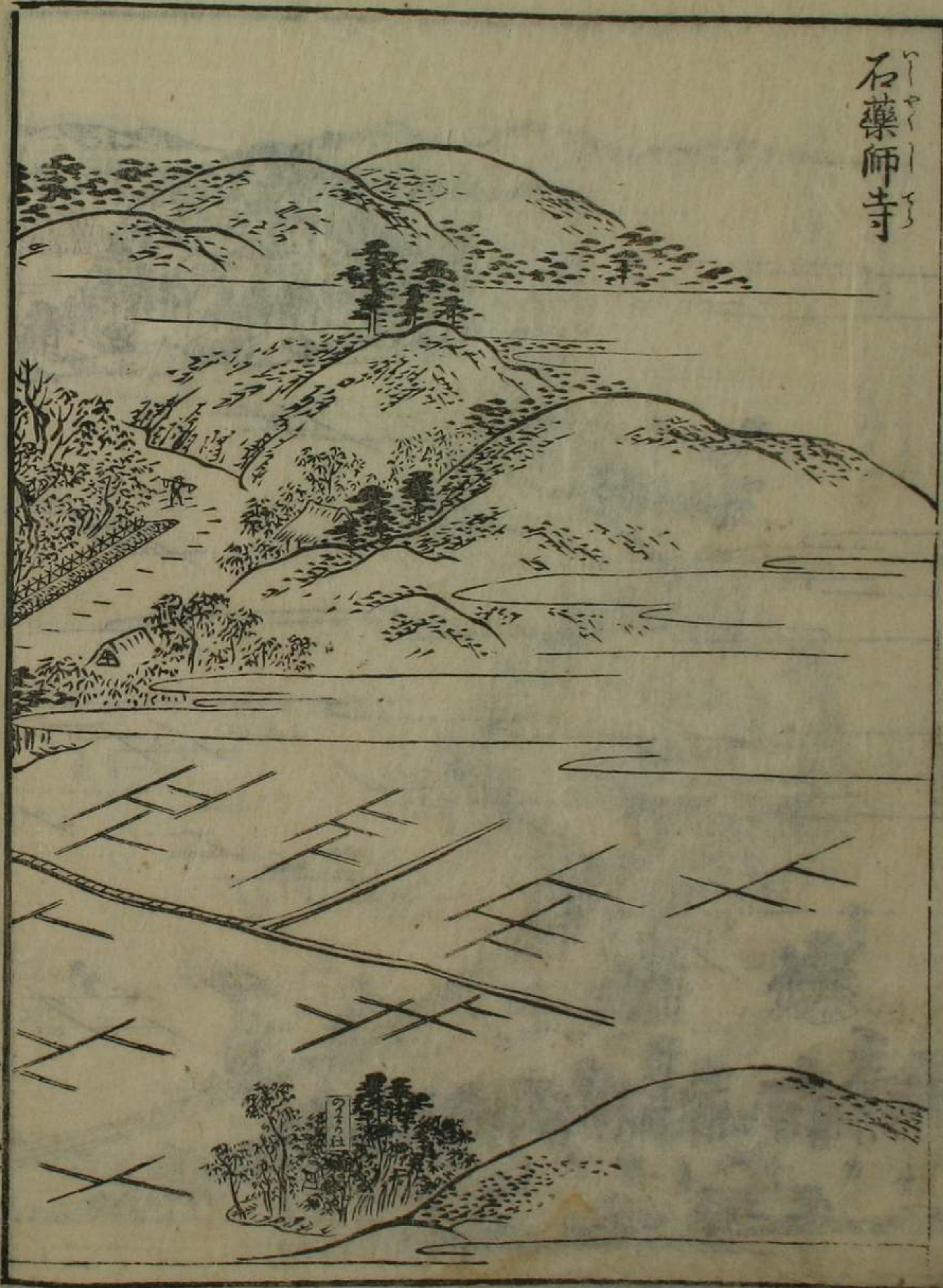
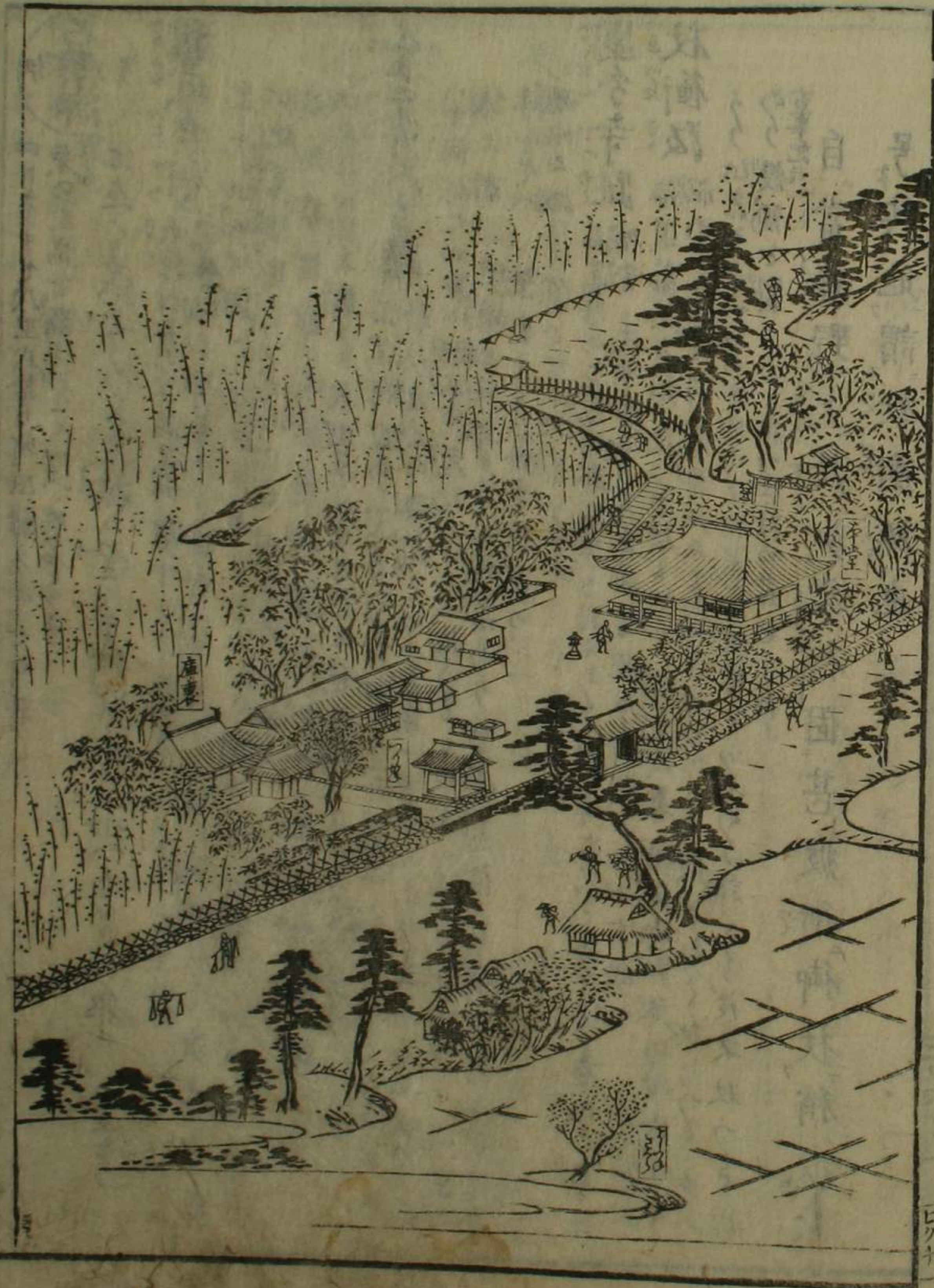
總過庄野郵有寺聳高樓西福門前景  
東方世界秋百病無自性四大一浮漚  
刻石藥師佛此言須點頭  
拜石藥師其制工應供方土本當東  
露合虛碧瑠璃色問出身途鑿鏈中  
右のあひしや柳はそのあふぬの救つりれと  
御曹子範頼祠 石茶師の向ひ民家の裏にありて土人云ひて範頼の轍と倒にうへに後小枝系榮といふ人義經運糧といふが田島の中にあつて範頼公



日本武尊陵  
 白鳥塚といふ  
 左聖石美作の月  
 宮村にあり

泉州他田之土  
 幣垣圖





石薬師寺

二ノ五十九

ヒクナ

石薬師

四月市まで八里七町は驛市中七町并  
東の立場と鞠ヶ原といふ地名あり

推武彦祠

長保村あり石薬師驛中よりたの方へ入る津所里計  
年神日本武尊神子推武彦王あり母ハ橘媛あり近年享保

赤人古蹟

石薬師驛の東小谷村右の方十三町許小赤村といふあり  
八十向の四方の老木あり又其の方一宇一石の塔あり又里の

園分寺趾

石薬師の東向郡園分村あり今津七宗とあり常慶山と号は  
杖衝坂 海道筋を郡杖つと村あり 日本武尊東征作凱陣の時内足子

自當藝野

上差少幸行固甚疲衝御杖稍歩散  
号其地謂杖衝坂也

歩りねは杖つと坂

歩りねは杖つと坂は落馬の事  
其の坂杖つたの名ある事ハ 日本武尊御井原所足公三重縣より曳

采女村

杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

進分泰宮道

神戶白子上野津へあり山田まで十六里  
日永村 此所万金丹の茶店ありたの森ハ神明山王天満宮あり又實蓮寺

安園寺舊趾

日永と四日市の間ありむら 伽藍傍房巍々なり初の尊  
安園寺伽藍去火の災に即ち焦土とありぬ

歩りねは杖つと坂

其の坂杖つたの名ある事ハ 日本武尊御井原所足公三重縣より曳  
向は時佩の石の御劍ととれり杖つたの事ハ今二子集乃今

されは芭蕉翁句に文字小自己公雅しく世に実情公存くハ意則  
杖衝坂の大道之予あり杖衝坂と名の傳不朽の石も来くとちたて

旅客ありてさるのモ  
在り 采女村 杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

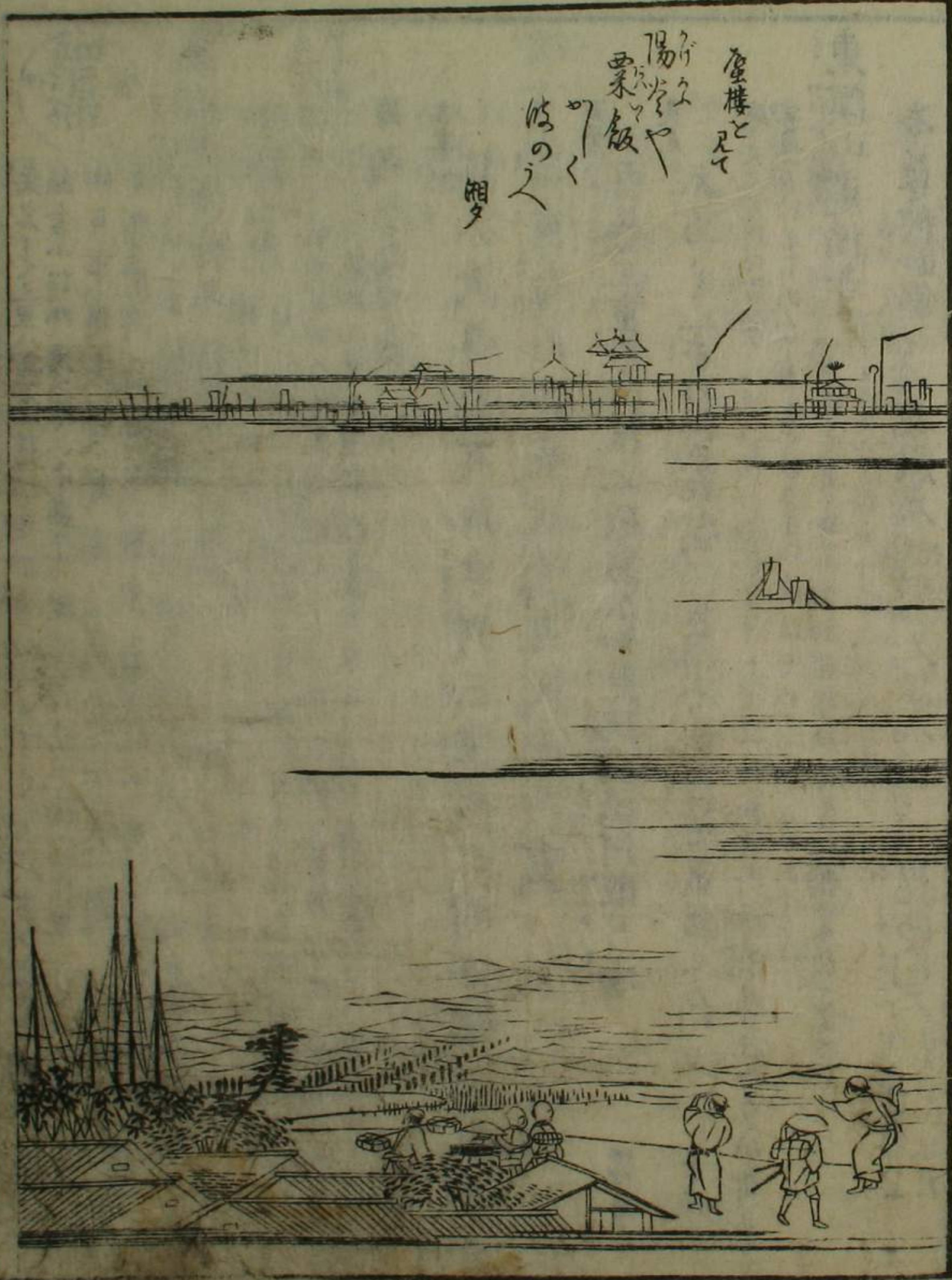
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

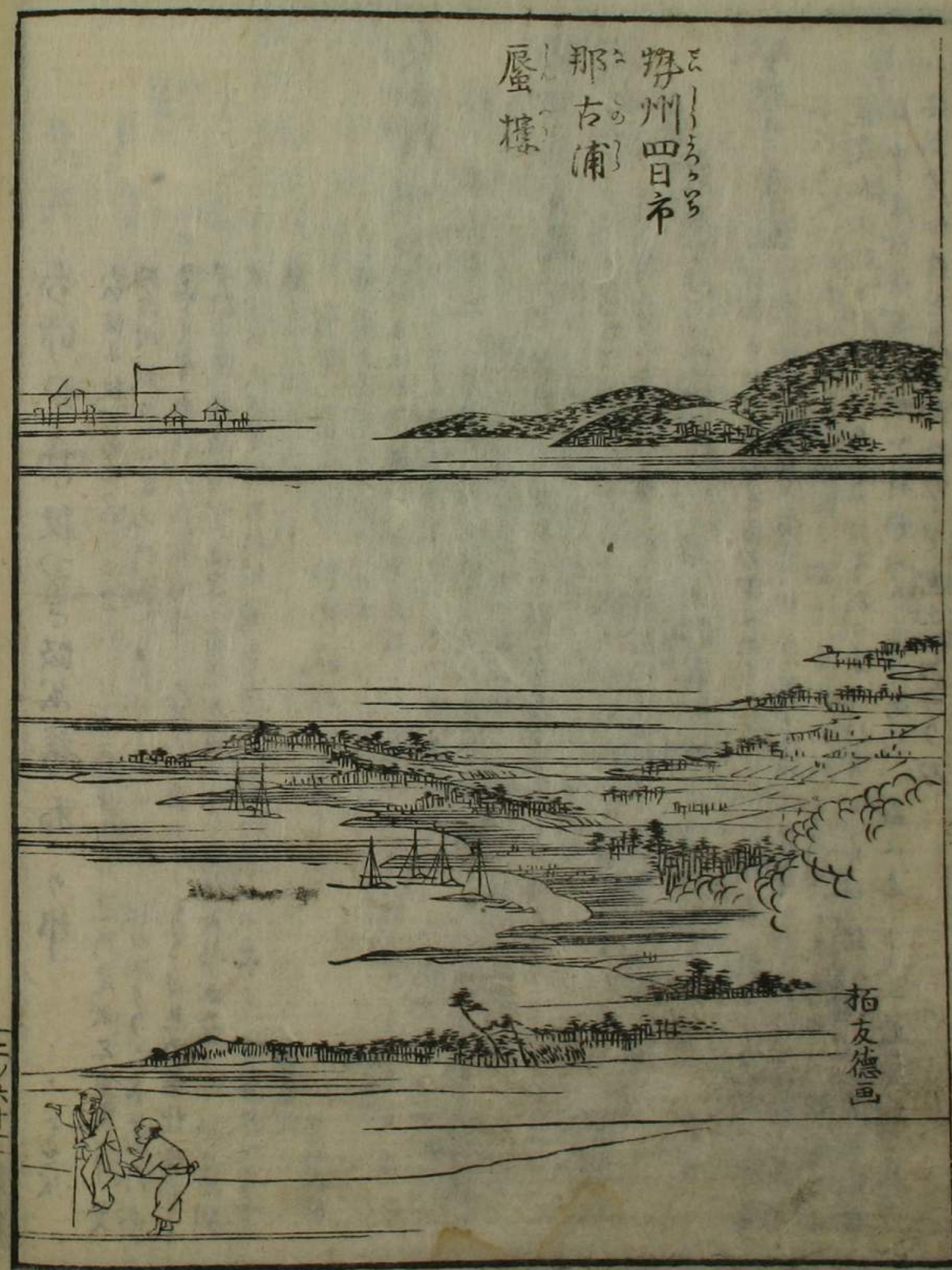
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く  
杖つと坂の東あり傳云 日本武尊所御の時三重の郡斎より 采女出く

屋橋と  
 足  
 陽  
 粟飯  
 崎の  
 人  
 相  
 夕



勢州  
 四日市  
 那古浦  
 屋橋



拓友徳画

三ノ六十一

**四日市**

名不著之三里八町志願海防都會の地なりて人多く宿中繁茂なりて  
旅舎不招坪及くこと懸一尾州官邸一海上十里  
四日市場人争赴處に商賈相共遇  
交易添得一日多中恐作公超霧

**諏訪神祠**

四日市に在りて神祠ありて神主神代主命 建御名方命  
樂車懸ありて道傍に神祠ありて神主神代主命 建御名方命

**糸神二座**

建仁年中信州公防上下を社に奉りて勸修  
二重川 日賦中より一名沖龍川といふ或は三龍に表は水派八冠岳より湧く  
二重郡の山中七里許流是四日市より海に注ぐは橋上より那古

**古事記**

日本武尊自其地幸到三重村之時亦詔云吾足如

三重勾而甚疲故号其地謂三重

吾疊三重乃河原之磯裏示如是鴨跡鳴河蝦可物

夫本

亦名之三重の河原にひりてゆきて其後

或云三重川の古源ありて四日市よりを里許上流に延喜式内神系神社ありて所あり

**東溟山建福寺**

四日市小の禪宗曹洞宗總持寺の輪基所あり  
末寺七字塔同十戸又學寮あり

**本尊釋迦佛**

在財天 大黒天 毘沙門天  
運慶の僧共  
客殿小堂

**鎮守**

十六羅漢 涅槃像 俱非股子牙 出山釋迦 牧養  
十佛像 十三佛像 俱惠心者  
當寺向基の坐堂了源和尚之總持寺二世我山和尚北五哲の老人形の相傳り  
坐堂和尚の坐室和尚の同門子ありて那須野の殺生石の海に及すり時師の  
命ありて坐堂和尚の坐室和尚の同門子ありて那須野の殺生石の海に及すり時師の  
今に坐堂和尚の坐室和尚の同門子ありて那須野の殺生石の海に及すり時師の

**當山會式**

二月 大延保鬼 七月  
九月 臘八會 正月

**那古海辰樓**

四日市の海辰樓那古浦といふ名其地ありて歌枕名考に  
浦ありて日本橋の南九町ありて名其地ありて今記で長町といふ  
又記中にも那古浦ありて勢州那古浦未考は浦ありて今記で長町といふ  
鳳樓海上より川を經て伊勢太神宮尾の熱田宮へ神倉ありて  
其形風興りて蓋を蓋にありて又諸侯の作又も  
宮殿の相輝にありて人時を及ぶ事ありて忽須更のありて  
とありて又尾州の海に浦ありて水の氣陽程は素とて立昇るなり

**那古浦**

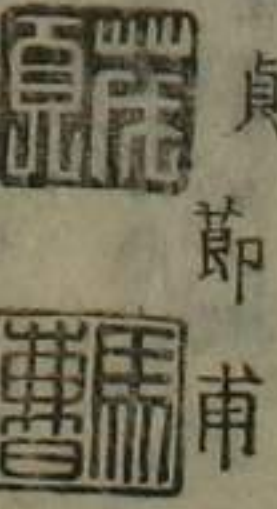
那古浦之質也動者天地之氣也質者姑不  
靜者天地之質也動者天地之氣也質者姑不  
論焉夫一氣之運轉旋也會氣者皆與焉  
仙人有靈禽獸鱗蟲有道遙者有若勞者有頭見  
者有隱匿者彼此萬態皆一氣哉吾鄉四日市  
驛之為地也在勢焉比畔而遠望東南數十里



面千大洋海門矣是海門也南界之熊岳北  
 則尾州如盆池設石然吾鄉所望不  
 其微而己春夏之交數月一鄉日晴  
 靜風收將雨之前自地如連尾之嶠  
 雲變態或臺閣或門而前可說也  
 伍排列森不違平其觀不有干旄  
 山北海象後平常兵其顯見也發  
 失北吾不違歲千步蓋以爲三南  
 焉人傳道二所皇太神廟遊幸干  
 土博物者云勢灣之北遊產也尚  
 廟也吐窮神鳴呼靈測若夫天地  
 天理可窮也鳴呼靈測若夫天地  
 運轉旋爲奇觀爲名勝者非邪  
 東海道中名所圖會批筆端之氣  
 題實以贈亦貞之批筆端之氣哉  
 寬政七年乙卯夏五月曹西村貞節甫  
 勢州四日市驛馬曹西村貞節甫  
 徒從了源和尚平願舟本去都少卿躬  
 の徒從了源和尚平願舟本去都少卿躬

垂及觀者

四日市乾毛里并垂及山小あり天台宗本尊  
 他又宗師堂あり與院あり慈覺大師依安法同基  
 徒從了源和尚平願舟本去都少卿躬  
 の徒從了源和尚平願舟本去都少卿躬



志氏神社

朝明郡御津村あり延喜式内  
 奈神天照太神荒靈記内

おそれし人と思ひ志氏の侍本綿さるるを思ふ  
 丹比真人

西乃菴蹟

今同趾さるるあり  
 山家 いせれありくと申前にゆらるる梅芳しく匂ひたつ

梅の香ひききやうたうさうさあひふ  
 西乃法師

名物湯粉

東富田おゆけお所の茶店に火鉢と粉湯一  
 旅客か譽れ茶名の精粉とあひふ

町屋川

尾州小牧合戦和隆の後内大臣織田信雄口と豊臣秀吉ととけり

茶名

宮寺で海上七里ハ海州尾州の園歌人佐屋也り宮寺で丸里茶名郡  
 小葉名ありあはれ親里といふ山州宇治郡に宇治あり愛宕郡に  
 愛宕ありあはれ茶名舊名三浦茶名と専断する水保  
 年中已後の本茶名尾州郡會の添りて町敷多く賈人の新茶

茶名誠じり三崎城といふ文正年中藤川左近將監一益北勢長治  
 一柳右近將監直盛氏家内膳正貞和等次第に領一園ヶ原合戦の

後平多度松平度次少

在城あり

名産白魚

漢村赤須堂より時雨給  
 名産白魚 漢村赤須堂より時雨給

名産白魚 漢村赤須堂より時雨給



四日市近本  
 せんとくもの  
 妙術ありて  
 心へ優み  
 糸の若妙手  
 和衣は海に  
 寄筆意

あつと  
 のの若  
 えだ  
 ひくもふ  
 あつと  
 あつと  
 あつと

あれは名産の白糸  
 拾ふにあらん

春泉齋画



四日市素名の  
 町の富田あけ  
 の焼捨る名物  
 一とゆきの人も  
 あつと酒と  
 勤めこれ故  
 賞状を

いんや  
 中丸輪の  
 小ゆき  
 喜  
 斑作

二六十四

ヒツナ

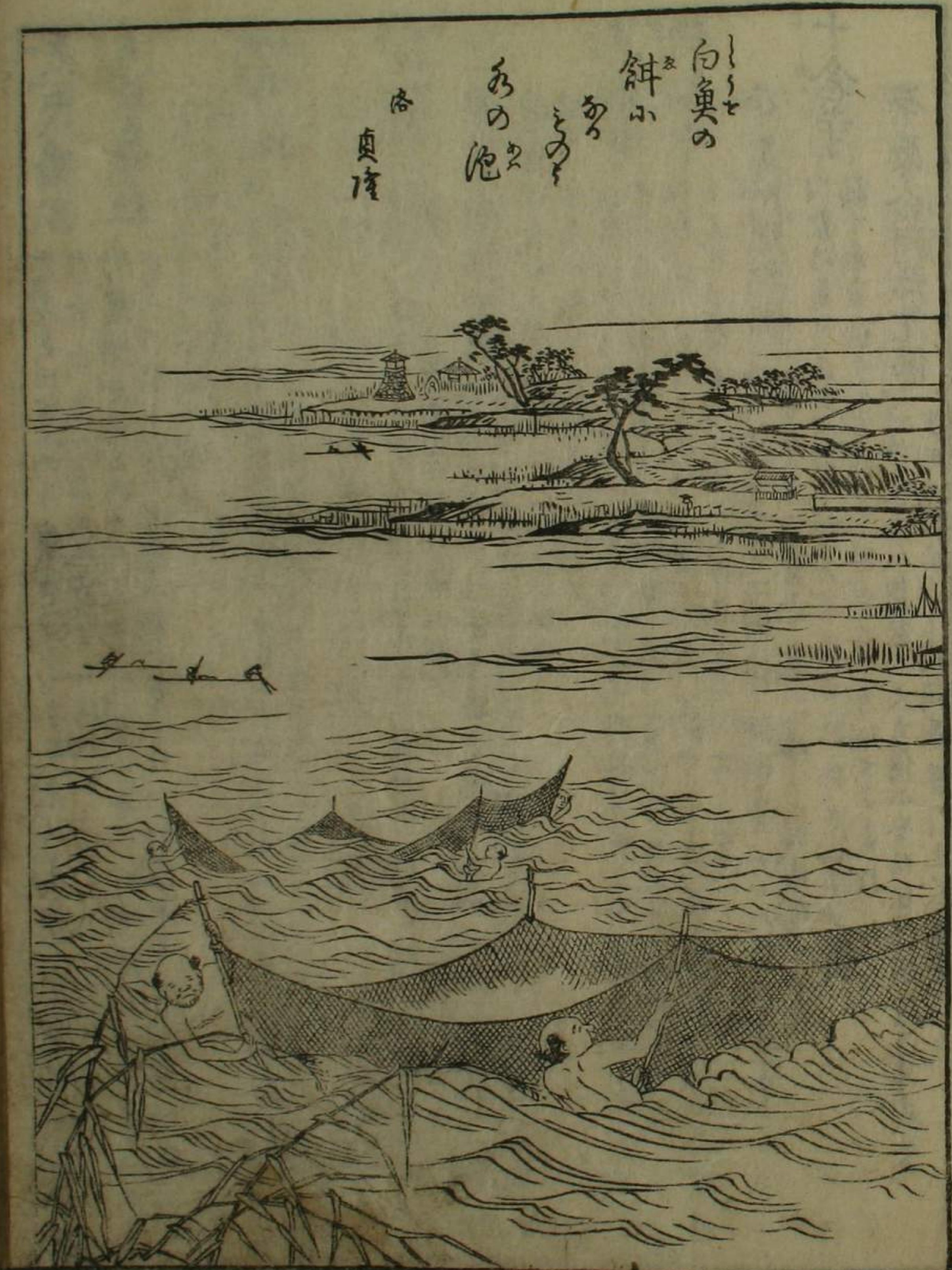
粟名の海々  
 冬より夏に至る  
 まで白魚の獲り  
 半多し又船と  
 秋八月の初より  
 終る時迄と  
 美味とされ  
 船の名も  
 出たり



栢友徳画

二ノ六十五

白魚の  
 鮮小  
 魚  
 魚の  
 池  
 各  
 真産



ヒガナ

夫田八幡宮

本名夫田町あり慶長年中本多忠勝侯の山に此村より遷り

文武天皇社

同驛鶴巻町あり天皇御事の事八日奉紀小足くすり旧地より

一本松

本松古村の西田圃の中あり東西二十間許南北九間許秀代の大樹小

長圓寺

日驛日所あり慶長六年今の地に始り

本尊阿弥陀佛

成明應五年二月九日實如上人より方便法身の

嘉量寺

日驛日所あり日蓮宗身延山の末より開基日意上人文明年中建立本師

願證寺

日驛日所あり本願寺門徒より開基蓮如上人の息蓮淳

本尊阿弥陀佛

安永元年中本堂と一身田一移し對面所とせり

十念寺

日驛日所あり隆吉宗鎮西風伴光山と号し

本尊合阿弥陀佛

立像長三尺觀智二大士俱不安らば此賜福小地蔵也

法然上人

法然上人傳法之印其外畧之

光德寺

同驛新町あり隆吉宗鎮西風伴光德寺

本尊阿弥陀佛

念心信都他長四尺余上品上生相むり法然上人遠州櫻也

泡洲崎八幡宮

光德寺門内あり本名の旧名三洲崎といひ北に自擬洲

衆名神社

日驛官通の小あり延喜式云衆名神社二座例祭七月七日

祭神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

衆名神社

石取神事といひ又七月十七日与ウリノ神度八月十八日大衆禮

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

攝社

本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

母山祠

地主神といふ

地主神

地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

春日明神

春日明神 春日明神 攝社 本山阿彌陀佛 母山祠 地主神といふ

末社 神明 慈聖 若宮八幡 多度 酒解神 神宮寺 仁基の奉創 併眼院と号次

当社ハ彼母山地主神と曰日若山王宮神社ハ延喜式内京名神社と云ふ也  
あつんを云ふ三崎明神ハハ名其後 伏見院御宇 正應三年南都より  
春日明神と京名益田左衛門村小移し 同帝永仁三年八月十八日益田左  
より加良郡の内山母山の社地に移り

幡龍瓦 京名城角山の南に二ツ月の幡龍瓦あり古代の他ハ  
説云は下小真辨殿を平かきと云

本統寺 京名寺町小あり京師東本願寺攝末所京名寺坊と林ハ初ハ  
教如上人の息女長姫君法体と云 嘉量院殿といふ門徒傳

輪崇寺 圓相房觀音聖人と傳と云 唯佛房と改む 仁基ハ真海といハ二世  
式百余寺尾濃郡に散在

本尊阿弥陀佛 親寧聖人影 六十二支條 光明本 一幅聖人の  
見しもの 京名八歩後實傍都の寺在王丸の持尊在王尚古小 亦之條 初ハ自疑洲  
遊命終を墓の所矣田河原の西あり

文殊像 遊命終を墓の所矣田河原の西あり 亦之條 初ハ自疑洲  
遊命終を墓の所矣田河原の西あり

本尊阿弥陀佛 安海の他生瀝の靈體之軀の具一貞と  
毎月十五日阿彌陀佛近隣宿糸次

神寶山法皇院大福田寺 京名城下十町許あり東方村小あり  
真言宗仁和寺御室の御法流あり

正觀者 右脇櫃小安次長式尺寸五分 文會 智尊 兩化 秘祀云  
實正法皇持念の本き山山り 寺の御所寄附と

實正法皇宸影 堂内小蓋佛多し  
聖天堂 本堂の南あり 醍醐三聖院宮報恩院法下持念のき條ハ靈驗新に  
十一面觀者 仁基傍心 鎮守 天照太神御坐  
仁基の山腹鎮坐

什寶 八相成道畫圖 聖德太子御尊當古一の什室之妙相料云と海内の奇寶といふ  
十六善神繪 聖武帝御所寄附皇太神官法樂服若會本きあり

如意利髮曼荼羅 淳和帝御所寄附。八佛曼陀羅 同帝御所寄附  
金剛界大日像 淳和帝御所寄附。文殊菩薩繪 村上帝御所寄附

金剛子念珠 實正法皇御所持。寺領繪旨 後宇多帝より繪入  
不初尊 弘法大師作也 同尊 智證大師作也。不初尊繪 眞教大師作也

緋紙金泥龍施女絶 光明皇后御作。存財大 弘法大師作也  
二菩薩法号 法陽成院宸者。高寺縁紀 西三条内大臣實隆云云

其外教器畧之  
天當山年 用明天皇御宇 聖德王の奉創之其後 天武帝 持統帝等  
り奉りて一般會仁王金あり 聖武帝ハ皇を神宮奉幣の御當と云

奉りて千僧法樂會ハ概りて弘法大師ハ一夏安居して之密の法成  
終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

終り真言の道場と云ふ 淳和帝の御時ハ初願真言の梵刹と云

寛平法皇 宇多 皇太神宮 法樂と成せんとて當寺小幸の川に皇太神宮の  
 親向公作侍の月と累の日公積とて遊觀し之に因茲方丈を以宮とて  
 法皇院と號と 後冷泉帝も永承七年正月幸有て一子僧公聚て初會の  
 續經あり其後弘安元年大興小懼く伽藍煥燄とて中興伊勢長官額田部  
 大和守實澄神託公榮り忍性上人 興正菩薩の上足たり 心と合せ再建ふ及び  
 福田寺と號し忍性と中興とに神託の靈應顯聞小達し 後宇多帝の  
 勅願寺勢の詔公賜入足利將軍尊氏當公公尊信し之の字とて之に  
 大福田寺と稱と世人は只大寺とて之殿后明應とて之正に至りて之の兵變に  
 懼とて往古南伊勢山田小ありて神宮寺たり唯一ありて時奈名郡に移  
 近世万治二年まで安永村江場村の向小あり今東海道とて福村といあり是當寺  
 の門ありし所之故公大内村といふれ北伊勢に於て初願の靈場眞言の古刹に  
 於て之又及びかむ 塔頭二十院末寺四百四十餘ありて之を皆一  
 御寶殿 室庭所小ありて一持統天皇の御時之移の村寶公ありて姑く納堂し所と  
 又文武天皇幸の村三橋明神示現ありて之也

佐乃富神社 所室殿社也小あり  
 延喜式内

中臣神社 日新小あり  
 延喜式内

佛眼院 深名魚尾通小ありて天台宗東叡山小属は山号寶興山  
 額録書之寶興山と書は之龍の寺

本尊文殊菩薩 嵩山二十世快尊法下の他靈仰阿弥陀安石鉢の他  
 又十二面觀音之室荒社共に快尊の他

什寶 紙銀泥華嚴修行額品 惠果阿闍梨等 延曆寺縁記 尊本親王等  
 唐等 釋等 阿闍梨 移衣公 纏中 小 比較の妙画

嵩山の南基の傳教又師之く陳海院と号し旧地今の東方村の西南あり  
 延喜帝の御時より三橋の神宮寺とて之之今の地に移ゆ嵩二十世  
 快尊法下は長壽より百七十茶の齡公保ちて登天とあり寛永年中  
 の住職の之尊法下とて南光坊天海和尚の門子也

大圓寺 東名入江所小あり津去宗西山流ひりて比叡山小ありて天台宗之  
 仁明帝御宇昌運和尚南基其後勢州新明邪馬場小移ゆ

本尊阿弥陀佛 惠心傍邪從脇檀阿弥陀基日他某師伴定朝他長我久九村  
 立佛初天台宗の本尊之馬場村に移ゆ小ありて土俗

什寶 十王画像 親輝等丹青妙畫之 大黒天 傳教又師他投願中と着は異相之  
 地蔵等 唐等古画。不初等 十六善神 俱小 傳等古画 已上  
 當寺の慶長年中東名是所小あり今一是所と云く武士屋敷とてゆふ  
 号法二の八江所に移ゆ

柳堂法盛寺

兼名蓋所小あり津土真宗西風寺中五ヶ寺  
未寺六十餘箇寺北伊勢小あり

本尊阿弥陀佛

法慶化長三人分許齒と具足し由山の齒吹の如末と林は  
開基より安延仲より奥州秀衡の持尊也

経藏

通平寛政三年造之額般若山美樂入成等標元東潤より南一廿一牧目洛東  
東福寺の尾と草垣より標小東福寺の南山聖一圃所より大羅の標か

金鼓堂

堂あり書院

額柳堂

室鏡寺官理秀尼公

書院

室鏡寺官理秀尼公

鼓樓

堂あり書院

額柳堂

室鏡寺官理秀尼公

最勝寺

日所小あり右同宗西風寺原真言宗  
本願寺三世賢如上人小寺して今宗とある

本尊阿弥陀佛

是日の化初八同國長徳坂村小あり西勝寺と野  
末百八十餘寺門徒五千餘家あり長徳一乱の時尾州

不動院

元和中城主松平源州彦行初場所とある

三國傳末

本尊不動尊

忍心の化

三國傳末

鎮守天満宮

不初院境内小あり居額天満天神佐々木志津廣寺神依り長  
そ尺餘白木依り又天満神画像迎衛信基との号とあれは正

楊柳寺

地と云旧跡小名木の柳あり寺あり  
地と云旧跡小名木の柳あり寺あり

持統天皇 潜龍の

本尊釋迦

正觀名

金銅坐像

金銅坐像

赤須賀地藏尊

赤須賀東提の上小あり石像三人五才海をより出現真言修驗道守  
額龍宮山 佛本志は一人を地藏王 額 徳海碑前

徳海碑前

徳海碑前

常燈明

夜走波海廻船の標あり

白魚塚

芭蕉翁句碑

伊勢海

兼名より西航の陰海

句あり

句あり

いせの海小泊る

いせの海小泊るあまのうけあれや心を川と定るのけふ

野垣

野垣

いせの海に塩をく

いせの海に塩をくあまの履衣あるとをわあね君か

皇居文庫

皇居文庫

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

大伴黒主

大伴黒主

いせの海ありけり

いせの海ありけり一日本より初くあまのうけあれや心を川と定るのけふ

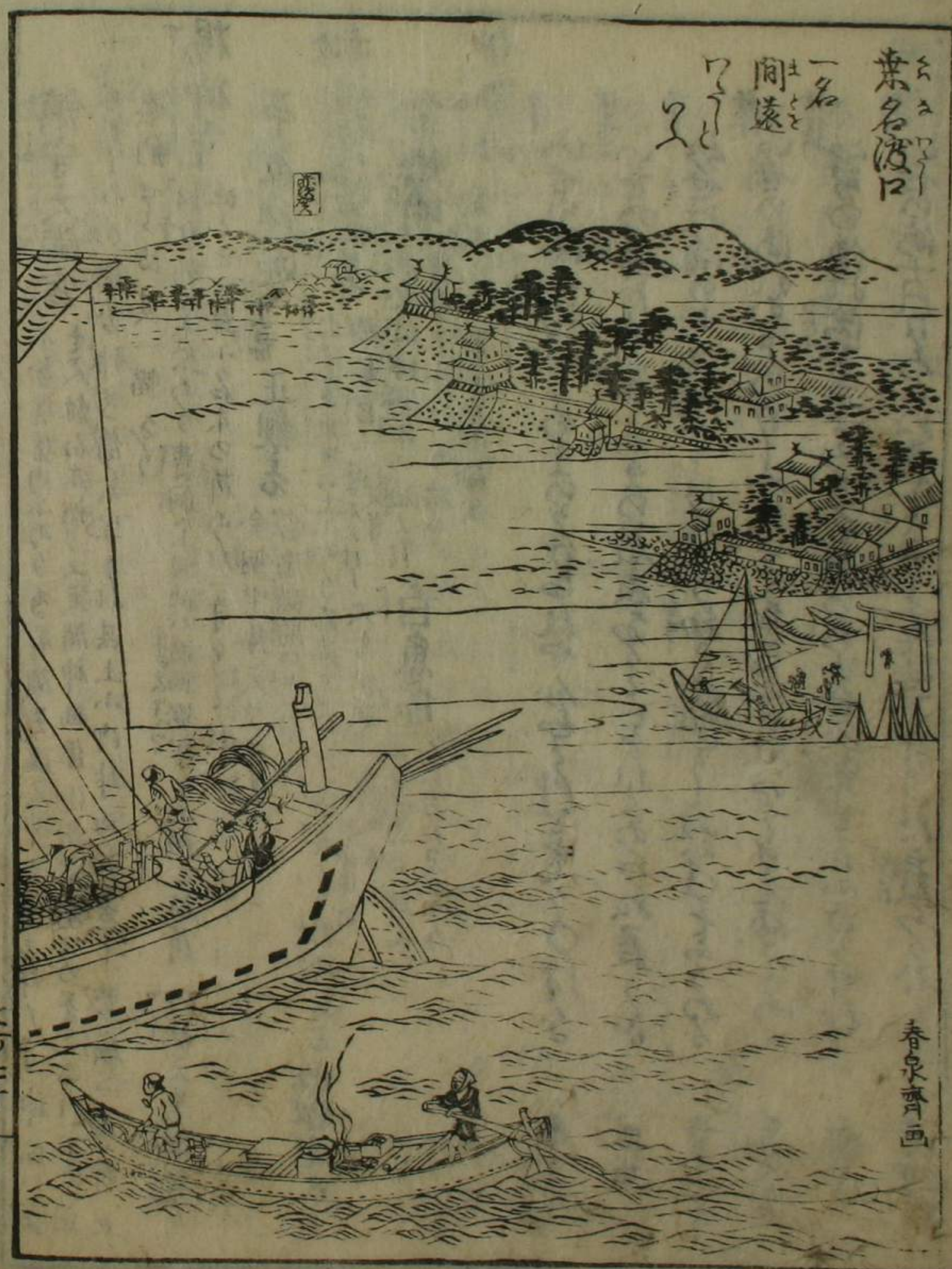
大伴黒主

大伴黒主



服<sup>はく</sup>の<sup>な</sup>名<sup>な</sup>は  
 真<sup>ま</sup>帆<sup>ほ</sup>の<sup>な</sup>名<sup>な</sup>は  
 あけ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>帆<sup>ほ</sup>の<sup>な</sup>名<sup>な</sup>は  
 胡<sup>こ</sup>蝶<sup>てつ</sup>の<sup>な</sup>名<sup>な</sup>は  
 帆<sup>ほ</sup>の<sup>な</sup>名<sup>な</sup>は

二ノ多



葉<sup>は</sup>名<sup>な</sup>波<sup>な</sup>口<sup>くち</sup>  
 一<sup>い</sup>名<sup>な</sup>  
 同<sup>どう</sup>遠<sup>えん</sup>  
 口<sup>くち</sup>

國

三ノ七十

春良齊画



間遠

祭名七里の河口... 延喜式云多度神社大

あそひのあつ... 伊勢也

曙記

祭名不着ぬ城のあり... 拾ふものこれ初くまり

拾ふものこれ初くまり

かみ代

樽柏子

斑叶

多度神社

北伊勢祭名郡多度ふあり

祭神天津彦根命

相殿 右惶根尊

日本紀曰素盞馬尊御子天津彦根命此茨城國

攝社一目連祠

祭名一目連祠

社名北伊勢水暴風の災あり

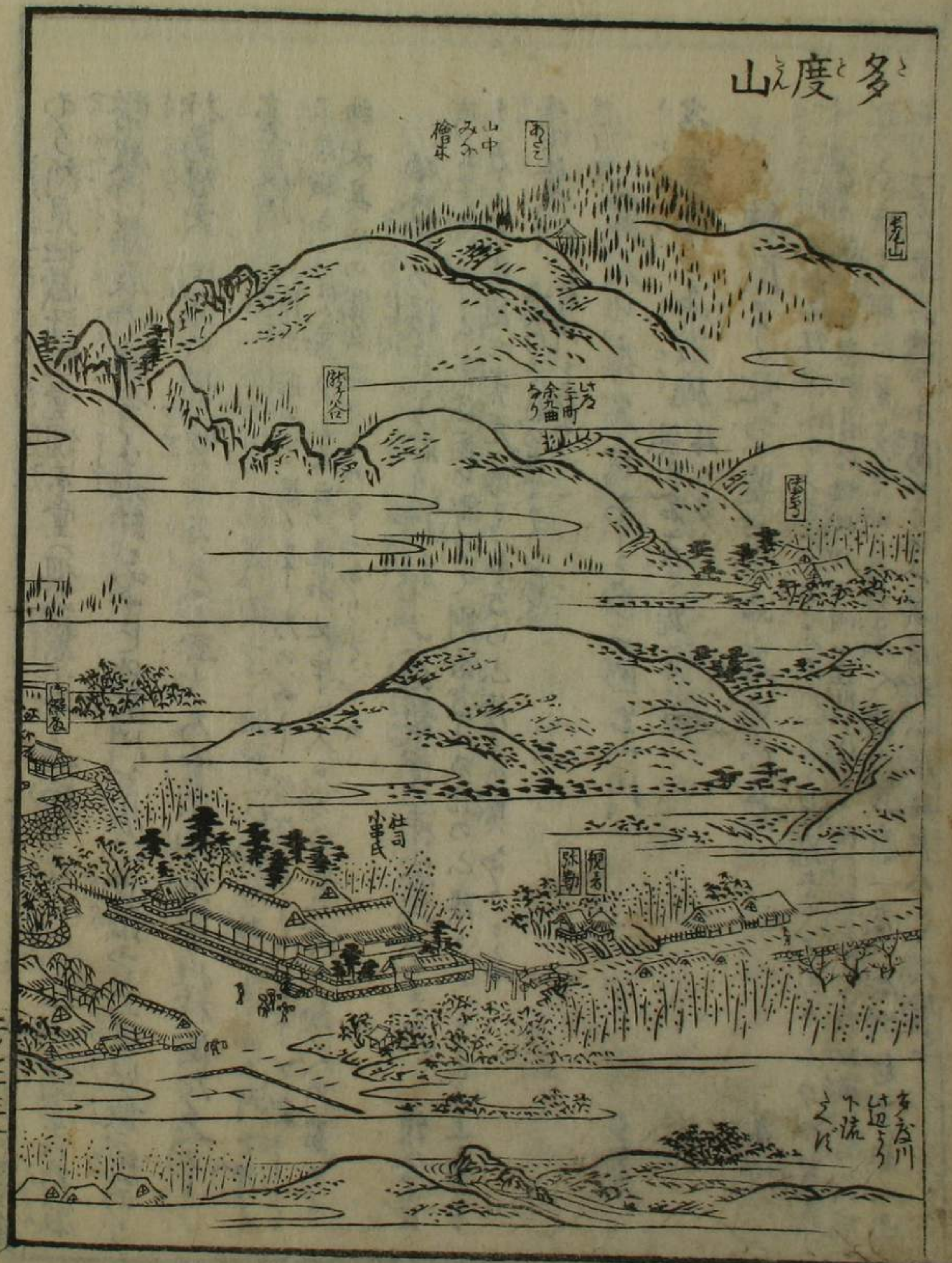
末社 伊保久志祠 八幡宮 一卷祠 藤波祠 稻荷祠  
八王子祠 両宮 鉾立祠 山神立坐 龍神祠

本宮社の鎮坐は年歴之遠あり初年純は後往昔多度抽井山楮祠  
村尾津村等の邑里みか神領あり今に至り尚社之鎮神とて九月の祭式  
小まねれり勢心故小村氏流り疫病或は産婦の難ふことある永祿年中  
みか織田家の令下と當り瀧川一益之將軍とて長治多度のやより合戦  
止事ふしは時多度社冠火小罹り神寶齋祀一様小亡其後慶長六年  
の辰年多忠勝度茶名左城の村尚社と再宮し其より累代の城主  
尊崇ありて之畧齋觀小塚せり年中の例祭七度中み五月端午の流  
箭馬あり神領の村氏神前於て圍たりとて定む騎人四家門を人少  
をへ日神樂之基小山村の東に旅所へ神をありてありて流箭馬あり  
近國近郷の老翁社とてこの秘系禰麻小異ありは同月初四日お田植の  
神事禰降月初日お沓形餅と神供と次神主小串氏平聖氏の二家社  
傍に法をさるといふ真言宗より大悲の像と奉りて上愛宕の坂路二十餘町

わりの所見地祇勸堂觀者堂俱小禁あり修験と喜空院といふ社頭あり  
幣殿神饗殿神連舎子水所みさの瀧川を用ひ金鼓あり之宅堅忍流あり  
折南勢出 内外の神小勢あり多度の登りり實小神國の中は社國たる  
多度川 水原壺渡の下流岩カ剛やく地中へ入潜り板を千四五町と修く  
不思議ありは書り土人云く流水中へ入る者の四五町小穢人の家あり  
神水其地の穢を避さるゆありと云云  
多度川の流をさるれり神枝にて多藝堂の原小宮よりきた 後を  
或云多藝堂の神は英濃國の郡名之則多度山の北の山嶽とありて上右  
多度も英濃國の郡名之則多度山の北の山嶽とありて上右

落葉川 多度の本社の傍より流る  
龍川といふ  
宮人の赤名瓜ちりちり海多川  
多度梅 俱ふ名赤之梅あり

神風より北の要や 多度のむ先  
七色楠 本社石塔の下小あり七色の木ありは名とて周五丈八尺ありといふ  
起つて城と崩れ是多度明神の祟り城門の扉一方は尾州多度郡へ次  
そり一方は赤名城下小流るといふ其後新植植たりといふ大樹と





夕立や  
塵も  
流る  
神衣  
乙由



津島  
牛頭大王





奉安の海軍六月十五日  
 車樂山五浦公船小舟にて  
 難きあり十四日有宮東の  
 これ年挑灯と投石揚げて城の  
 這へても見之れ西の  
 町をたて風系斜  
 あらに振し  
 半の東の祇園  
 四糸海東の夕  
 浪はひと何  
 見たり  
 尾州の  
 の香観

津島牛頭天王 新編津島町史 六月十五日

祭神素盞島尊 本社小糸は南向神奉小糸供殿廻廊拜殿勅使殿竹中

一王子祠 本社左小糸あり素津輪田 八王子祠 本社右小糸あり素神五男三女

柏宮 透櫛の左ありナリ 居森祠 又一別宮と称し 彌生布衣 地主神は社説云

他毒神祠 真神の荒魂を奉 獲民將末祠 又一別宮と称し 十二末社 又古齋社

主由社の神傳と鑑小糸地の舊名は藤波里といふ八皇七代 孝靈天皇

四十五年牛頭天皇の和魂太神韓土より返朝はしして河内州對馬に

立く兼て累々殿后 欽明天皇元年神勅有く尾張國海郡郡の二郡とあり

門真元は神傳小神等より按對馬州小糸兼之く鎮座ありしは

久月之遷幸の後之文字改く津島天王と称はるる又地名も藤波と

廢し津島と改めし後之世永祿天正のに贈正二位右大臣藤田上総介平

信長公當國より發向し畿内及び東海東山兩道の間小糸より平

逆多々討之威と四海小輝と奉遷旭の出るが如く此社天王の神威は  
尊信 治平安民の擁護は務め社願は經營し素式は嚴密を以て  
ゆゑこれと傳書素とてく遠近の壯觀とありみか足四海の浪穩に  
しと平天下の瑞あり

津島素記

花洛 南田子葛藤述

此社一寛政の如く此のま月尾張の國鳴海の里下村氏のまこふよりて  
津島の中より小糸ありをた塩田氏とありと考対小下村氏の神人眞聖時綱  
が著せる素記 正徳五年 として示されけ記は末由議論と主ありて行旅且  
おたてりてくたあをあれ今いほくく入る所と奉くまのゆゑいこう  
か記よりて要とほとあるに拵は素の御神人民のそ撫みく候しむと  
憐と納涼を教めしる基あり十日の宵素とてしひひと長 西條の村 故に  
試樂といひし信樂と唱へてしと神宣祀ありてか記より 試樂は六月二日  
より八日小建び毎所の車をみくく調樂し十二日小至く江口み放く賜の試樂 見  
とも村若小法く十日十五日共小安全の神とありきは里俗ありといふこと

舟の青糸の二輪車樂五輛 記ある所を下標 かのつゝ船二艘  
 ありりひるまは紙板ひは島川小舟は都下り多き笠簪の形小  
 挑燈と揚の車おひら〜記ある百六十〜と船の目板小舟真柱 俗小舟意  
 小舟の十二〜と月の教る欄の四方〜と十〜と一月の目板と  
 必と今海をふれる志は教ふ〜と海をり〜とおほゆ〜と〜と  
 拍子〜と〜とあり〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 太鼓のつげあゑ也於此と唱ふ市販村の車樂也平波と唱ふ〜と  
 市販今秋のあゑは其所〜と〜と〜と〜と五輛の車樂に法より法小  
 漕舟〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 棄て〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 名〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 一〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 漕舟の形と解く小舟舎〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 二七七八

舟は是より車樂 舟の形ありぬとせ 車樂の莊と〜と異なりて屋形を〜と  
 した〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 先きむる心地〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 小舟一 下舟見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 幕のりて〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 其の定〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 標〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 舟の里法小八岐のからちと足履乳〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 ませ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 漕舟一車樂の若者小〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 舟も〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 舟社〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と  
 次る見〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と





孟宗の  
 日本今も  
 あるをう  
 穀の中  
 孝の  
 物



春泉

竹の  
 神籬  
 穀の  
 初生  
 瓜蒞  
 小使  
 の  
 調進  
 られ  
 中の  
 香の  
 り



萱津の東宿のまんとてとれとてその種の人ありきりてはともむぐ  
はうふのくちをあらう今日に市井日ふあんあううるとをいふあ  
性還のあふひもふふかーやうぬ家はささのふくけみや  
人ふやうんとよめるたのあふんはやうううくたねゆ

阿波の浦

萱津のやういふ海とて見たり  
古語多し

名なたるあをそれ浦の海士たもみらうくおとと支

源雅光

浪る社のひるまあうややあそその浦に海士ととや

信宗

つらあつその浦にういせ貝むかーくのもぬく社

後醍醐天皇

うくふくゆるもさう若中そのあつその浦にあふりか火

後醍醐天皇

徒まをううらうそあひきさうあつその浦にあふりか火

為徳

阿波の杜

阿波の神祠の神籬と

寂庵法師

うたはく人もまをまかたてそ果あつその杜と成り

案式部

阿波の神祠

阿波の杜あり又粟殿社と書け身傍に正法禪とて

素光

社傍に云々祭神伊弉諾伊弉册の二尊とて土人云ひりより産子の人々  
粟殿と称し五穀及び瓜蒞必根の致初生瓜神供とて又海老の湯を  
より其初生とて瓜蒞の初燃は神祠の側み籠桶やうのりかあ  
べく其初生とて瓜蒞の初燃は神祠の側み籠桶やうのりかあ  
すくもはれと敵を神籬に敷あはれ諸小菽の中此番之おと林とて  
國中の人口小贈文とていふ事あり

豊吉公出誕古蹟

尾州海東郡上中村あり佐屋とて若原より北町計

八月十八日豊太阿菟野の村中法蔵ありとて田宗の寺あり毎年  
湯の出生所もはある藤村の中村に氏神八階宮と今みおけり  
出主の諸侯はあつふ古跡多しとて

異編日本傳曰

萬曆十九年日本天皇率兵超入大明之時秀  
吉答書曰朝鮮國王閣下雁書薰讀卷舒再三  
抑本朝雖爲六十餘州比年諸國分離亂國綱

東海道名所圖會卷之二

如修許憂年吾不己朝故攻依壯母予間廢  
目隣容者者朝肩雖廷民則有年夢事伐世  
錄盟也乎在風國歷盛富無此必日蹟叛禮  
領也予遠方俗家長事財不奇八輪鄙臣而  
納予入邦寸於之生洛足取異表入陋討不  
珍無大小中四隔古陽土既作聞懷小賊聽  
重它明島貴百山來壯貢天敵八中臣徒朝  
保只之在國餘海不麗萬下心風相也及政  
番顯日海先州之滿莫倍大者四士雖異故  
不佳將中馳施遠百如千治自海日然域予  
宜名士者而帝一年今古撫然蒙日予遠不  
於平後入都超焉日矣育摧威光當嶋勝  
三臨進朝政直鬱也本百滅名所干悉感  
國軍輦有化入々夫朝姓戰者及挖歸激  
而營者遠干大久人閑憐則其無胎掌三  
已則不慮億明居生關慙無何不之握四  
方稱可無萬國此干己孤不疑照時竊年  
物可作近斯易乎世來獨勝乎監慈按之

Handwritten notes at the bottom of the left page.

文化元甲子七月九日坂子友



Vertical text on the right page, likely a title or chapter heading.

Main body of vertical text on the right page, consisting of multiple columns of characters.

Red seal impression and signature at the bottom right of the right page.

北堂